

# ものNarrative Tourismがたり

第5号

## 観光行動学会誌

李  
有師

ロッジきよかわ開業記

高田  
公理

旅の酒ものがたり

■研究発表論文

古賀市の廃線跡地利用について／武田亜由美

有人離島における観光について—ゼロからイチへ—／内田 康貴

■研究発表ノート

博物館観光の現状と課題—歴史系博物館を中心に—／山中 鹿次

■研究論文

「ふるさと納税」政策によるものがたり観光促進／奥野圭太郎

■エッセイ

青山和夫(2012)『マヤ文明—密林に栄えた石器文化—』岩波新書を読む／古畑 正富



# 創刊にあたって

本学会論文誌創刊の意図は「観光」を論じた読み物をつくることである。

「観光」は地域や学問領域を越えたたのしみであり、学ぶよろこびである。共通のたのしみやよろこびを「読み物」として会員に伝えるために印刷物として配布することは学会に求められている任務だと考えた。

学会員共通の関心をかき立て、共通の課題に応える「読み物」をつくりたい。そして「読み物」であるから研究者以外の一般の人々にも知ってもらい、読んでもらいたい。学会にふさわしい学問的な内容を備え、学術論文の体裁をもった堅めの読み物も、事例報告やエッセーなど柔らかめの読み物も収めたい。書きたい人の熱い思いを受けとめる場も必要だ。こうしてこのような学会誌が誕生した。投稿する人も手にとって読む人も共通の関心は「読み物」である。すなわち書

き手には、人に読ませようとする配慮、読んでほしいという情熱、が求められる。一方、読み手には読み物として妥当かどうか、わかってもらおうとの努力、気配りがあるかどうか、の吟味をお願いしたい。書き手と読み手の双方が求めるもの間に本誌の輝きは生まれるだろう。

『ものがたり観光行動学会』には、呼びかけに応じて、物語が好き、歴史が好き、人が好き、遊びが好き、そんな人々が集まってきた。そしてメンバーが納得できる舞台づくり、環境づくりに取り組んできた。

若い世代には、何か文章を書いて投稿できる媒体が欲しいという声が強い。ここに誕生したのは、まとまった考えを發表したい、聞いて欲しい、読んでほしい、意見をたたかわせたいという思いを持つ人に提供される新たな場所である。

ものがたり観光行動学会会長 白幡洋三郎

CONTENTS

01	創刊にあたって	白幡洋三郎
03	年次大会のものがたり	
04	エッセイ 李有師 ロジきよかわ開業記	
08	研究発表論文 武田亜由美 古賀市の廃線跡地利用について	
16	研究発表論文 内田康貴 有人離島における観光について——ゼロからイチへ——	
24	研究発表ノート 山中鹿次 博物館観光の現状と課題——歴史系博物館を中心にして——	
29	エッセイ 古畑正富 青山和夫(2012)『マヤ文明——密林に栄えた石器文化——』岩波新書を読む	
30	研究論文 奥野圭太郎 「ふるさと納税」政策によるものがたり観光促進	
38	研究ノート 高田公理 旅の酒のものがたり	
46	旅の原稿を求めています・編集規程および執筆要領について	概要



LEE Yuuji

## 李有師

2015年7月25日、大分県豊後大野市清川町に「ロジッキョカワ」が開業した。日本百名山、祖母・傾山を源にいたく清流・奥岳川を眼前に、敷地面積が阪神甲子園球場と同程度、約4ヘクタールほど（登記上の面積はこれより少ない）。その敷地の中には、旧・清川村時代に建築された大小さまざまな「宿泊棟」が苔むした状態で存在していた。

この古ぼけた建物群を、名ばかりの「宿泊棟」から、名実ともに、人が泊まることができる「宿泊施設」とすべく、今年4月末から改修し、開業にこぎつけた。

これはその改修から開業に至る経過を記した概略的な開業記である。

# きよかわ開業記

## 1. 性能発注という改修手法

大分県は「おんせん県おおいた」という県が主導するセールスコピーでもわかるように、県政の中心に「温泉を中心に据えた観光政策」が掲げられている。各基礎自治体においても、別府市や由布市、また竹田市のような観光先進地は多い。

ところが「おんせん県おおいた」にあつて、豊後大野市には温泉が皆無（県内では他に、津久見市との2市で温泉が存在しない）、古くからいわゆる一次産業で成り立ってきた土地柄で、観光の産業化や観光ビジネスに対する政策的な位置づけ、さらに観光にもっとも必要とされる「時代への機動性」は希薄であった。ただ、ここ豊後大野市には、古くから継承されてきた一次産業の様々な伝統が目に見える形で残されている。「井路」と呼ばれる用水路網、その数が日本一、その径間が日本最大とされる石橋などは、その一例である。これらは農業や林業の営みと密接に関係してきたが、これらそのものが、「まったく知られていない観光資源」として活用することが可能と考えられる。

これらのことで理解できるように、この地域の風土性は一次産業か



03

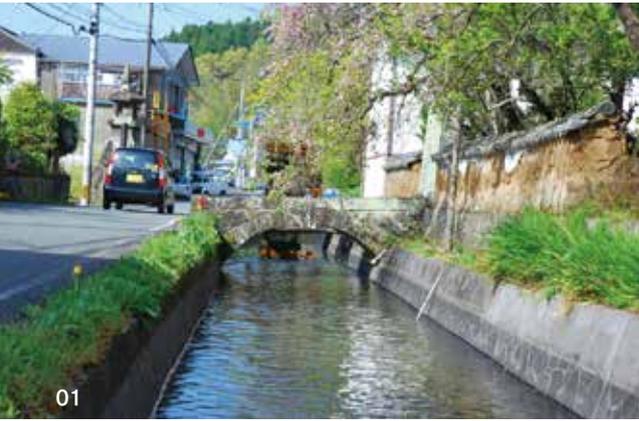


02

ら由来する多年にわたるストックの継承、すなわち年次ごとに検証されるいわば「伝承の風土」ということができる。

「伝承の風土」とは、言い換えれば「急な変化は不得手」ということができ、この点から、当該施設が目指した「4月末からの改修スタート→7/25開業」というタイムスケジュールは、「性急すぎ」との不安が当初から指摘された。

このため、市発注となる建物群の改修には性能発注という工程スタイルを市建設課に検討・採用してもらったことになった。住宅・都市整備公団（現・UR都市機構）



01

# ロツジ

が予測された。その建物群の内訳は、管理棟、炊事棟、ツリー型ハウス（全10棟）、ログハウス（全4棟）、キャビン棟（木造板張り・全2棟）などで、不完全であった合併処理浄化槽を含む給排水・衛生設備は全て新設せざるを得なかった。

また、建物に近接する多くの大木が長期にわたって放置されてきたことから、全建物のほとんどが屋根・壁を中心に大きなダメージを受けていた。中でも管理棟の壁は内・外ともに板材がやせ細り防水・断熱処理がなされていなかったことから、構造材へのダメージも心配された。結果的には壁材の張替えて保全対応が可能と判断されたが、内外ともに全面的な板材の張替えが必要となった。

などでも多く採用されてきた、この工程スタイルの利点は、予算を集約的に活用できること、工期の時間的な制約を取り払うこと、その両面で実効性が期待できたからである。

## 2. 想定外の老朽化

改修する建物・施設は平成6年頃に新築されたものが多く、新築以後の営繕が不完全で当初から「目に見えない部分に対する改修」

さらに、炊事棟では大屋根が朽ち、崩落寸前の危険な状態であったことから屋根全体をガルバリウム鋼板で葺き替えることになった。その他の棟の屋根・壁については予算的な制約から「洗い処理」で済ませたが、このようなことから、一般的に言う「目につきやすい所のデザイン処理」よりも、「目に見えない部位への手当」が改修の中心にならざるを得なかった。

まだある。建物に近接しすぎていた大木の伐採、伸び放題で放置されていた木々の剪定、さらに長年のメンテナンス不全で排水不能となっていたトイレシャワー施設の埋設管も取り換え

**01** 緒方地区の井路：この地区では名瀑・原尻の滝、上流部から引かれたこのような井路が地区を横断し目にも美しい。井路には所々に小さな石橋も現存している。

**02** 出会橋と轟橋（とどろばし）：アーチ径間が日本1位、2位の石橋が併存する驚嘆する光景であるが、観光ビジターに会うことはきわめて稀だ。

**03** ツリー型ハウス：全10棟が存在したが、この内の2棟は施工不良のため傾きが激しく使用困難であった。写真はそのうちの1棟で、写真をよく見ると右側への傾斜が見て取れる。

**04** 炊事棟の屋根：長期にわたり屋根の全面積に大木が覆いかぶさっていたため隠れていた木部が腐り、屋根全体が崩落の一手前前という危険な状態であった。



04



05 仮事務所でのデスクワーク：4/27から約2カ月間、左記写真手前のログハウスを仮事務所とした。外壁洗い作業で「水攻め」となり、室内で傘をさすこともあった。

が必要となっていた。目視等で確認・予測していたこれらへの対処ではあったが、改修が進むにつれて当初予測を上回る規模となり、「目につきやすい所のデザイン処理」は、どんどん後回しに、あるいは回避の対象になったものが多く発生した。

### 3. 事務所移転と予約開始

この「ロジきよかわ」を運営するのは昨年11月1日に発足したばかりの「一般社団法人ぶんど大野里の旅公社（設立時理事長は豊後大野市長・橋本祐輔／現在は、ものがたり観光行動学会・専務理事、李有師が理事長と専務理事を兼務）」である。この組織は旧来の任意団体、豊後大野市観光協会を閉じ、新たに組成された組織で、旧協会時JR豊肥本線・三重町駅前にあった事務所も4月27日に引き払い、引っ越した。この改修現場の最前線（改修中のログハウスの一画）を新事務所とすることにしたからだ。

また、GW連休明けの5月7日からは、7月25日の開業に向けて予約業務も開始した（6月～7月にかけて予約業務を一時休止した時期が存する）。これら一連の行為は、戦後の高度成長期か

ら今日まで、全国各地であたり前のように組成され運用されてきた、「遊興レジャー型の余暇を支える〇〇観光協会」ではなく、地域の資源（産業的な基盤や継承されてきた自然・歴史・伝統）を「地域そのものが主体性を発揮し観光プラットフォーム化する——ものがたり観光行動」の一環である。この一連は、当該改修予算と併せ、そのすべてが豊後大野市によってオーソライズされた。それは、ある意味で、ものがたり観光行動学会の活動成果そのものともいえよう。

### 4. これからのこと

ロジきよかわは豊後大野市清川町宇田枝という地区にあり、清流・奥岳川はこの上流域にダムを持たず（堰堤は除く）、流域も短い。このため、人里にあるロジきよかわ前の奥岳川にあっても、その水流はエメラルド色に澄みわたり（左頁の写真）、日本百名山、祖母・傾山を源にいたたく清流は盛夏でも冷涼、このため標高僅か125mの地にありながら、夜半、熱帯夜に襲われることが、まずない。驚くことに明け方は冷える。

日本ジオパークに認定されている豊後大野市は、ほぼすべての市

域が約9万年前の阿蘇山の大噴火、その大火砕流によって形成された特徴的な大地にある。沖縄本島の全面積の半分にもなる市域約600km<sup>2</sup>は、「大分の野菜畑」と称されるほど農業が盛んで（水稻や椎茸栽培、畜産・養鶏も盛ん）、全戸が耕作をしているのかと勘違いしてしまうほどの勢いを持っている。

しかし近年、多くの中山間地域がそうであるように、ここ豊後大野市でも少子高齢化が顕著で、営農に様々な工夫が必要とされる時代が訪れている。すなわち、地域の価値化による農産品のブランド化である。

農産品は言うに及ばずモノづくりにおいては「品質一番」であることは言うまでもないが、一方でブランディングの欠如も、生産者の損失を回避させるための必要条件であることは、いまだきの時代の必然である。

このような観点から、ロジきよかわにおける営業活動の基底には主に次のような5つの視点を位置付け、今後の活動に向けようと考えている。

①地域（宿泊者）と地域（立地地域）が「出会う舞台」として機能する。

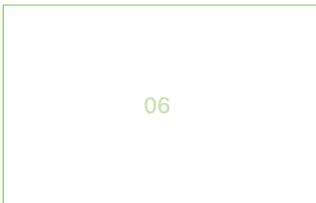


②その機能化には、積極的に地域食材を用い「出会いの意外性」を演出できる場所としてのチカラを蓄える。

③地域内外の若者が「働ける場」として売上目論見を計画し、その計画達成に努力する。

④伝統・文化や従前からの地域性に敬意を払う一方で、持続可能性を高めるための斬新な活動に注力する。

⑤この地に存在し営業を継続させることが可能な宿泊施設として、独自の価値を創造し発展・継承させる。



- 06** 奥岳川：ロッジきよかわ前を流れる清流
- 07** ログハウスの全塗装：朽ちはじめていたログハウスの外壁は、洗い処理の上で浸透性の外壁塗料を丁寧に施工した。屋根は予算の関係上、洗い処理のみとなった。
- 08** 道の駅きよかわ：近隣の人気店「道の駅きよかわ」には、地元露地物の野菜が毎日ふんだんに並ぶ。

はじめに

筆者の住む古賀市は、福岡県粕屋地方に位置し、糟屋郡新宮町と福津市に挟まれた市である。1997年に市制施行し、糟屋郡古賀町から古賀市となった。古賀市は海や山の自然に恵まれ、九州最大の都市である福岡市に近接しているため、経済、流通、交通の面でも利便性の高い生活環境が整っている。また、江戸時代には唐津街道が通っており、現在の町川原に「青柳宿」と呼ばれる宿場があるなど、古賀市は昔から交通の要所であった。現在、古賀市には九州旅客鉄道株式会社（以下、JR九州という）の駅であるしずぶ駅、古賀駅、千鳥駅がある。古賀駅は快速電車が停車し、JR博多駅へは約20分、JR小倉駅へは約50分と通勤、通学に便利である。また、国道3号線を通る西日本鉄道株式会社（以下、西鉄という）のバスを利用すると、天神郵便局前停留所まで約50分で行くことができる。

昨今、隣接する福津市にイオンモール福津という巨大ショッピングモールが建設され、新宮町にIKEAが九州初上陸するなど賑わいを見せる中、間に挟まれた古賀市は、スーパーマーケットなどの商業施設が閉鎖し空地化し



図1. むぎ古賀市（出所）筆者撮影。

\*西南学院大学

- 1 バラストとは、列車からレール・枕木を介してかかえる荷重を広く分散して路盤に伝え、列車に左右動、温度によるレールの伸縮による枕木の移動を防ぎ、列車の走行により発生する振動エネルギーを吸収する。また、雨水の排水が容易であり、雑草の生育を防止する石のことである

ている部分が目立つ。そのため古賀市ではいくつかの土地利用案が出されている。JR鹿児島線古賀駅の付近の商店街、玄望園の付近、西鉄宮地岳線（以下、宮地岳線と略す）の廃線跡地などがその対象である。

JR古賀駅付近の商店街は閉店している店が多いため、駅周辺を中心に商業地とし、その周辺にも日常的なサービスを提供する商業機能を配置している。

玄望園とは、古賀市にあるゴミ処理場付近のことであり、この周辺道路等の基盤整備をすることにより古賀インターチェンジ付近を利用しやすくなるとしており、すでに国から補助金として2000万円を受けとることが決まっている。

土地利用案の中で筆者が最も関心を寄せたのが、宮地岳線の廃線跡地の利用方法である。案は市のホームページに掲載されてはいるものの、実際に廃止され8年を経った西鉄宮地岳線の跡地を見ると、未だに草が生えた場所が残っていたり、バラストが残ったりしたままである。また、西鉄宮地岳線跡地を維持するだけでも年間500万円古賀市が負担していることも問題である。そしてなぜ西鉄宮地岳線が廃止されたの

かということにも疑問を持った。住宅沿いに通っていた西鉄宮地岳線は、福岡市地下鉄箱崎線に乗り継ぎをすれば福岡市の中心部にある天神駅に直結していた。昔から交通の要所であった古賀市にあった宮地岳線は、住民にとっても便利であったはずである。本稿では、まず宮地岳線が廃止された経緯について述べ、他県の跡地利用方法を調査する。そのうえで廃線跡地の活用策を提案したい。

## 1. 古賀市について

古賀市は工場団地、農業で有名な市である。工業団地とは、食品加工を行っている工場が多く集まる場所を指す。ここでは製造の過程で出る形の不ぞろいなものを格安で提供する直売所が併設されており、工場で作られた新鮮な食品を購入できる。また毎月最終水曜日には特売イベントを行っている。その日は常設の直売所を設け置していない工場も参加することができ、毎月オープン前からたくさんの方が並んでいる。

現在、古賀市では農業事業者の減少や高齢化、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く環境は大きく変化している。こうした問題について真正面から取り組んでいく

ために、農業者と関係機関が連携して、市民や消費者との交流、地産地消の推進特産品の開発など夢と希望が持てる農業の実現に向けて努力している。

具体的な取り組みとして2つ例を挙げる。1つ目は、古賀の農業者とふれあい、古賀の野菜を食べようというコンセプトのもと、「農家直売ノ軽トラ市」を開催していることである。軽トラ市は古賀市役所の駐車場で行われ、そこで古賀の農家の方たちが自慢の野菜や果物などを軽貨物自動車に積載して対面販売をしている。そのおかげで生産者のこだわりの話や、おいしい古賀市産の野菜に出会えるチャンスがある。2つ目は、2013年から年一回、「まつり古賀」内の特設ブースでK-1グランプリが行われていることである。K-1グランプリのK-1とは古賀の一品のことで、古賀市立図書館の駐車場と隣接している古賀市の運動場で行われている。K-1グランプリを行うことで古賀市が古賀市の事業者や農業者が地元の農産物を活用した特産物開発を支援している。事前に募集した参加者の投票によって毎年グランプリが決定されている。2015年に行われた24時間テレビのイオンモール福岡で販売さ

れていたゆめんたパンに付いていた人参ジャムは、K-1商品の一つである。2つのイベントは市街地で行われ、毎回多くの市民が訪れている。

また、古賀市では「博多あまおう」や話題の「スイーツコーン」「焦がし商品」など古賀市ブランドがたくさんある。スイーツコーンは販売当日の朝4時に1万本が収穫され、

年に一度しかスイーツコーン祭りが開催されないということで、先頭の人は販売時間の2時間前の朝7時から並んでいる。スイーツコーンはその名の通りスイーツのようにとても甘く、糖度が14%もあるため生のままで食べることができる。販売から1時間程で完売するため並んでも購入できない人が続出するほどで好評である。焦がし商品とは、焦がしと古賀市にかけて軽く焦がしたり炙ったりした、ほのかな苦みや香ばしい香りの特徴とする商品である。

焦がし商品の中の1つである「むぎ古賀市」というお菓子は、古賀市の工業団地にある博多菓子左衛門が製造しており、観光客、古賀市民の手土産として好評である（図1参照）。

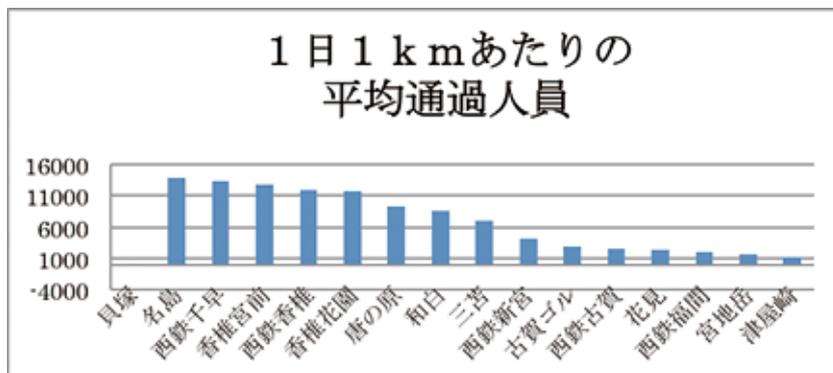


図2. 西鉄宮地岳線駅間通過人員 (2004年実績)

(出所) [http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05\\_169.htm](http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05_169.htm) より作成。

## 2. 宮地岳線廃止に至る経緯

宮地岳線は西鉄貝塚線の旧線路名称である。宮地岳線は博多湾鉄道汽船によって開通した線路である。博多湾鉄道汽船とは、西鉄に統合された5つ鉄道事業者の1つである。

他の4つの鉄道事業者は九州電気軌道、福博電車、筑前参宮鉄道、九州鉄道である。宮地岳線は前身の鉄道会社の相違から、他の西鉄の路線とは異なりJR在来線と同じ1067mmの狭軌が採用されている。また、西鉄は日本最大のバス会社でありながら、本州以外で唯一の大手私鉄であることで全国的に有名である。西鉄宮地岳線が開通した理由は、炭田輸送のためとされている。また、福岡市街地としての発展を見込んでことで、福津市にある宮地岳神社まで延伸され、終点は津屋崎であった。

宮地岳線が廃止された理由は、JR鹿兒島本線や都市部に直通する路線バスなどとの競合から利用が伸び悩んだことや、営業収益が営業費用を下回っていたからである。とくに西鉄新から津屋崎までの区間の通過人員は、2004年時点で貝塚から三苦までの区間の通過人員の4分の1である。そ

の区間の間にある古賀市の駅は古賀ゴルフ場前、西鉄古賀、花見駅の3つである。西鉄は私鉄であるため生き残るには採算がとれない路線は廃止していくほかなかった(図2参照)。

宮地岳線の廃止にあたり、福津市・古賀市・新宮町の住民から宮地岳線の存続を訴える6万人の署名が集まり、西鉄新宮から津屋崎間の第三セクター化が検討されたが、西鉄側が第三セクターとの直通運転を行わないと明言したことや第三セクターの設立には多額の費用がかかることが予想されたため断念された。そして、宮地岳線は2007年4月1日に津屋崎〜西鉄新宮9.9kmが廃止された。同時に存続区間は宮地岳線から貝塚線に路線名称を変更している。

## 3. 廃線跡地利用方法の事例

まず宮地岳線の廃線跡地の利用について、古賀市の両隣の市町の状態を述べる。福津市では西鉄が跡地の名残が残ったままの状態に住宅地および駐車場に転用している。新宮町は線路跡が細微されて住宅が建っており、近くにある杜の宮という住宅地と情景が合っている。福津市と新宮町の廃線跡地



図3. レールマウンテンバイク「ガッタンゴー!!」

(出所) 飛騨市公式観光ホームページ <http://www.hida-kankou.jp/spot/18/article/> より引用。

活用の共通点は、住宅地にしていない点である。

次に住宅地以外に廃線跡地を利用しているところに目を向ける。岐阜県にある神岡鉄道の跡地では、廃線となった鉄道の路線に自転車車を固定して走る「レールマウンテンバイク」が新たな観光スポットとして注目を集めている。神岡鉄道とは、鉢山の町神岡を支え続けた全長19.9kmの路線で、全線の6割がトンネルと鉄橋からなることから「奥飛騨の地下鉄」とも呼ばれ、全国でも有数の包摂地帯として知られる奥飛騨の生命線ともいえる大切な鉄道であった。しかし、2004年に営業収益の8割を占めた貨物輸送がトラック輸送へと切り替えられて経営が悪化し、廃線となった。その廃線跡地を利用したレールマウンテンバイク「ガッタンゴー!!」はマウンテンバイクと廃線跡の鉄道を組み合わせた新感覚の乗り物である。また、ガッタンゴーに隣接している「がったん茶屋」では奥飛騨の和仁農業が提供している米を使用しており、飛騨でしか味わえない食べ物を食べることが出来る。飛騨市は大自然が多く、登山や自然散策などを楽しまに来る観光客が多い。2013年には約2万6000人が利用

しており、利用者の声を聞きながらガッタンゴーをさらに進化させていくとしている。飛騨の大自然を生かし、お客様の声を反映させ、市と市民や観光客が一体となって作り上げた廃線跡地利用法は、飛騨市にあった飛騨市ならではの活用法である(図3参照)。

#### 4. 耶馬溪鉄道の跡地利用方法

耶馬溪鉄道跡地は周囲が多くの自然に囲まれているという特色を生かし、サイクリングロードとして廃線跡地を利用されている。しかし、同じサイクリングロードを跡地利用方法として他の廃線跡地で行っても成功するとは限らない。その地域にあった跡地利用をすることが重要であるということ述べる。

筆者は、2015年8月に福岡県から近い大分県中津市にある耶馬溪鉄道廃線跡の現地調査を実施した。耶馬溪鉄道は1913年に開業し、全長36kmで周囲には青の洞門や羅漢寺などの有名な観光地がある。しかし1970年代に入り、沿線の過疎化による利用者の減少と道路整備が進んだことで1975年に全線が廃止された。そして耶馬溪鉄道跡地は、1982年にメイプル耶馬サイ



図5. サイクリング途中のトンネル (出所) 筆者撮影。



図4. やばけいひらた駅 (出所) 筆者撮影。

クリングロードと呼ばれる西日本最大の自転車道に整備された。サイクリングロードには秋の紅葉シーズンはもちろん主に土曜・休日に県外から多くの観光者が訪れている。また、2003年には日本経済新聞のお勧めサイクリングコースランキングでメイプル耶馬サイクリングロードが1位を獲得している。

耶馬溪サイクリングターミナルに用意されている自転車は大人用110台、子供用65台<sup>2</sup>、タンデム自転車45台、電動アシスト自転車5台の計225台がある。大人は1回6時間以内で370円といった利用しやすい価格で自転車を借りることができる。また体力に自信がない人でも同額で電動自転車を借りることができるので安心してサイクリングを楽しむことができる。

メイプル耶馬サイクリングロードは全長約22kmで、その途中にある耶馬溪サイクリングターミナルから北に延びるAコース、南に延びるBコースに分かれており、前者は青の洞門方面、後者はやまくに方面に行くコースである。両者とも片道約10kmあり、往復すれば約20kmもの長距離を自転車に乗ることになる。途中でサイクリングをやめる人は指定の乗り

捨て場所に自転車を置くことができたり、サイクリングロードには何か所も目印があるため、一度も訪れた事がない人でも道に迷わず目的地までたどり着くことができたりと初めての人でも気軽にサイクリングに挑戦できるような工夫がなされている。また両者とも急な坂道がないため、高齢者や小さい子供でも、どちらかのコースだけを往復することは比較的可能である。

青の洞門方面のAコースでは、途中やばけいひらた駅という廃駅がある。やばけいひらた駅の標識は残ったままである(図4参照)。駅の標識がそのまま残っていることで、かつて鉄道が通っていた証を現在も見ることができるとあるが、自動車から見ると全く違う風景を自転車から見る事ができた。それは、サイクリングロードが廃線跡地を活用しているため、自動車では通ることのできない細い道や第二山国川橋、トンネルを通行することができるため、より耶馬溪の自然を肌で感じる事ができるからである(図5参照)。町のシンボルといえる第二山国川橋は2012年7月に集中豪雨を受け崩落したが、2014年5月に全通開通を遂

2 複数のサドルとペダルを装備し、複数人が前後に並んで乗り同時に駆動することができる自転車のことである。

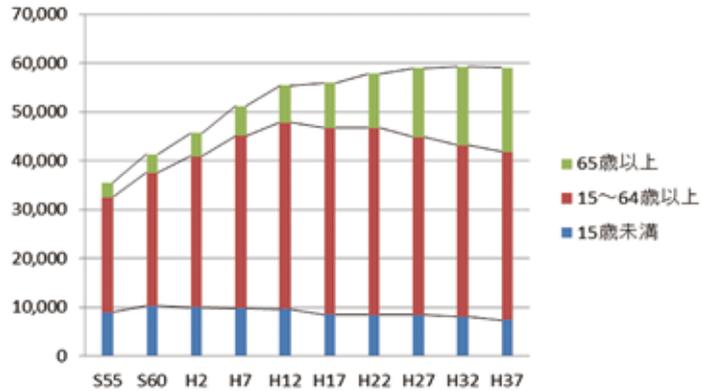


図6 古賀市の人口推移と将来  
 (出所) [http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05\\_169.htm](http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05_169.htm) より作成。

げ、自転車専用道路として観光客だけでなく多くの市民に現在も利用され続けている。他にもコースの途中には道の駅がある。サイクリングに訪れた観光客が道の駅を利用すれば、販売されている地元野菜や果物がより多くの人に売れる可能性がでてくる。サイクリングロードという観光地があることで町全体が活性化するといえる。現地調査を実施したのが平日ということもあり、同じようにサイクリングをしている人と会うことは少なく、また住民の方とも会うことも少なかった。山川が多くあるメイプル耶馬サイクリングロードは、レールマウンテンバイクと同様、周りの風景を生かした耶馬溪にしかできない跡地利用法であるが、サイクリングロードを毎日利用するのは近隣住民に限られ、観光客が訪れる土曜・休日や長期休暇中の利用が多いのが現状である。

## 5. 古賀市の 西鉄宮地岳線跡地の提案

古賀市は西鉄宮地岳線の跡地のうち大根川から福津市との境界まで2.8 kmを古賀市土地開発公社に西鉄から買い取らせ、2011年2月19日に古賀市が古賀市土地

開発公社から土地を買い取ることで決まった。古賀市が跡地を買い取ったということは、古賀市と古賀市民がどのように跡地を利用するかを共に考えることができるということである。古賀市が出している西鉄宮地岳線跡地の土地利用方針(案)の基本方針は以下の4つである。

1. 西鉄宮地岳線跡地を活用し、沿線地域の地域課題の解決をはかる
2. 市民全体が利用できる跡地利用を心がける
3. 初期投資及び維持管理費は、市の財政支出を極力少なくする
4. 市民の行政のパートナーシップによるまちづくりに取り組む

筆者は、基本方針を踏まえ宮地岳線跡地を市民農園にすることを提案する。市民農園とは住民がレクリエーションとして自家用野菜、花の栽培、高齢者の生きがいづくり、生徒、児童の体験学習など多様な目的で小面積の農地を利用し野菜や花を育てるための農地のことである。市民農園にすることで近くの住民だけでなく、古賀市民全員が利用できる場になる。古賀市は現在15歳未満が減少し、65歳以上が増加している。そして今後

も少子高齢化が進んでいくとされて  
いる(図6参照)。市民農園が  
できることは高齢者と小学生がコ  
ミュニケーションのとれる場が  
できることにもなる。

現在、古賀市にはグリーンこも  
の、ふれあい農園、五所の森市民  
農園の3つの市民農園がある。グ  
リーンこものは35区画数のうち空  
きが4区画、ふれあい農園は51区  
画数のうち空きが0区画、五か所  
の森市民農園は56区画数のうち空  
きが0区画である。3つある市民  
農園のうち2つの市民農園は空き  
がない状態で、もう1つの市民農  
園も空きが4区画と非常に少な  
い。3つの市民農園は古賀市の規  
定に沿って1区画25㎡で、料金は  
年間1万円と統一している。ま  
た、グリーンこものと五か所の森  
市民農園は古賀市民だけでなく他  
の市に住む人達も借りることがで  
きる。

筆者は、2015年6月にグ  
リーンこものにおいて経営者と利  
用者の方からヒヤリングを実施し  
た。グリーンこものは、2003  
年から市民農園を始めており、土  
地を借りる人はグリーンこものと  
契約を交わす必要がある。その契  
約書には全部で13条まで規約があ  
る。ここでは、基本的に水は使い  
放題で使用する農具は各自で持っ

てくることになっている。農園の  
区画割りや水道を農園に通すため  
の費用は古賀市から半分補助金を  
受け取り、足りない分は自己負担  
であった。利用者は、市民農園の  
良いところは「お金を払って自分  
が利用する土地を借りているので  
無理なく自分のペースで手入れを  
できる」ところや「最初の土づく  
りは大変であるが一旦土が出来上  
がってしまえば楽になり、収穫の  
時が楽しい」ところと述べてい  
た。ヒヤリングの際に収穫された  
玉ねぎをいただいた。農薬を使わ  
ず育てた玉ねぎは甘くて商品とし  
て売っても文句なしの味であっ  
た。このようなおいしい玉ねぎを  
育てるには多少土や野菜の知識が  
なければできないだろう。

古賀市にある宮地岳線の跡地は  
3万4050㎡である。現在、  
古賀市の市街地に市民農園はな  
い。便利のよいところに市民農園  
を作れば、もっと市民農園を気軽  
に利用できるのではないかと考え  
る。そこで市民農園を設置するに  
あたり宮地岳線の中でも試験的に  
需要のありそうな場所に作ってみ  
るのがよい。そこで筆者が注目し  
たのが小学校である。市民農園が  
小学校付近にできれば小学校に通  
う児童が授業の一環でこの農園を  
使って体験学習を行うことができ



写真7. 左：古賀西小学校付近 右：花見小学校付近 (出所) 筆者撮影。

る。そうすることで土曜・休日だけでなく平日にも市民農園に人々が集うことが見込める。宮地岳線の跡地付近には古賀西小学校と花見小学校の2つがある。両小学校の共通点は近くに公民館があるため、トイレ、駐車場が完備されている点も有利である。駐車場があることで近くの住民だけでなく、遠くに住む人達も市民農園を借りやすくなる。また、廃線跡が住宅地に沿ってあることで、市民農園にした時に近くの住民とコミュニケーションをとり、異なる世代の人とコミュニケーションがとれる場になる。

この2つの小学校付近の宮地岳線跡地うち、試験的に市民農園を設置するならば花見小学校付近がよいと考える。その理由として第1に、花見小学校付近では宮地岳線跡地と住宅の段差がないことである。宮地岳線沿いを歩いてみると線路と道路の段差が大きいところが多々あり、市民農園を段差があるとところに設置すれば、段差を取り除く作業からしなければならぬ場所が多く、費用がかかる。第2に、花見小学校付近ではすでに雑草が取り除かれている箇所が多く、バラストも撤去されおり、土、水道環境が整えやすいため市民農園が始められると考えられ

るからである。第3に、花見小学校付近と古賀西小学校付近の家を見てみると、花見小学校付近の方がアパート多くあるため自宅に野菜や花を育てるスペースが十分に取れない人が自宅の庭に行く感覚で市民農園に行ける(図7参照)。

## おわりに

以上のように廃線跡地の利用法については、廃線跡地がどこに位置しているかなどその地域にあった跡地利用がなされるべきである。

古賀市は農業が盛んな市である。古賀市にある廃線跡地に市民農園を作ること、農業についての興味がより一層市民に広がる可能性がある。自分の農園を持つことで野菜に興味を持ち、大切に育てることができからである。古賀市には特定非営利活動法人の文化協会があり、日本舞踊やヨガなどのたくさんの講座が開かれている。そこで初めての人を対象に土づくり、野菜作りの基礎講座を開講すれば、初めての人も安心して市民農園を利用できる。また市民農園で作った野菜を古賀市にある古賀市農産物販売所のコスモス広場や、K-1グランプリに販売できるようにすれば、市民農園を借りている人が野菜を育てるイン

センティブとなる。

市民農園が実現すれば毎日世代を超えた人々が集い合う場にもなるであろう。宮地岳線跡地を市民農園にすることは、古賀市あった跡地利用法であると提言したい。

## 参考文献

- ・ 広岡友紀「2013」『日本の私鉄 西日本鉄道』毎日新聞
- ・ PHP 研究所「2014」『西鉄電車・バスのひみつ』株式会社 PHP 研究所
- ・ 吉富 実「2014」『西鉄電車 特急電車から高速バス・路線バスまで』JTB パブリッシング
- ・ グリーンこものヒヤリング (2015年5月16日)
- ・ 古賀市 (2015)『広報こが』No.701 古賀市役所
- ・ 古賀市 (2015)『こが市議会だより』71号 福岡県古賀市議会
- ・ 古賀市経営企画課ヒヤリング (2015年5月14日)
- ・ 古賀市データブック  
<http://www.city.koga.fukuoka.jp/uploads/files/kikaku/2-2nendaibetujinkou.pdf>  
(Last Visited Jun 8)
- ・ 古賀市文化協会サイト  
<https://sites.google.com/site/kogaculturalassociation/> (Last Visited Aug 7)
- ・ 古賀市ホームページ, <http://www.city.koga.fukuoka.jp/> (Last Visited May 29)
- ・ 中津市 (2015)『メイプル耶馬サイクリングロード』中津市役所観光課
- ・ 中津耶馬溪観光協会ホームページ  
<http://www.nakatsuyaba.com/docs/2014020700032/> (Last Visited Aug 28)
- ・ 飛騨市公式観光ホームページ  
<http://www.hida-kankou.jp/spot/18/article/> (Last Visited May 15)
- ・ にしてつグループホームページリリース  
[http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05\\_169.htm](http://www.nishitetsu.co.jp/release/2005/05_169.htm) (Last Visited May 5, 27)
- ・ 西日本経済新聞ホームページ  
<http://matome.naver.jp/odai/2140225250094155401> (Last Visited Aug 28)
- ・ 耶馬溪サイクリングターミナルヒヤリング (2015年8月27日)

# 有人離島における 観光について

—— ゼロからイチへ ——

UCHIDA Yasutaka

内田康貴\*

## はじめに

本報告は、日本の有人離島の地域再生について考察したものである。日本の離島の中には、地理的条件としての<sup>1</sup>環海性、<sup>2</sup>隔絶性、<sup>3</sup>狭小性という条件不利地域であるにも関わらず、観光地として成り立っている島が存在する。例えば、魅力溢れる自然・豊かな食材を満喫できる沖縄県の石垣島や2015年に世界文化遺産に登録された長崎県の軍艦島の通称で知られている端島、歴史的背景に加え宇宙センターの設立により観光客が増加している鹿児島県の種子島などが挙げられるのだが、本報告では、特に観光地化が難しい高齢化・過疎化した有人離島の地域再生に着目する。現在、有人離島には、本土への人口流出による人口減少、財政基盤の脆弱性、雇用の場の減少など様々な問題がある。筆者はこれらの問題を解消していくために重要性が高いものは、「観光」だと考える。先の例に挙げたような島々は、他の離島と比較したときに特異性があるため、観光客を誘致しやすい。しかし、澄み切った海に囲まれていたり、豊かな食材に恵まれていたり、重要文化財があるような離島において観光地と

しての好条件を有している島々は一部にしか過ぎない。故に、筆者は低迷していく離島の状況を改善していくときに、観光地としての好条件を有している離島よりも、離島へ呼び込むための特異的な「観光」という手段を持たない有人離島の地域再生に最も着目する必要性があると考えた。離島の観光に関する先行研究は管見の限り以下の通りである。

神田「2012」は与論島のイメージについて述べており、岩下・花松「2014」は対馬の観光について述べている。また、山内「2007」は、海士町について述べている。

藤野・高橋「2014」は観光ビジネスにより創造される経済的価値・社会的価値について提言しているが、島民の意志・意向について触れていない。観光ビジネスによる経済的価値・社会的価値の創造が必ずしも有人離島の地域再生において成功というわけではない。

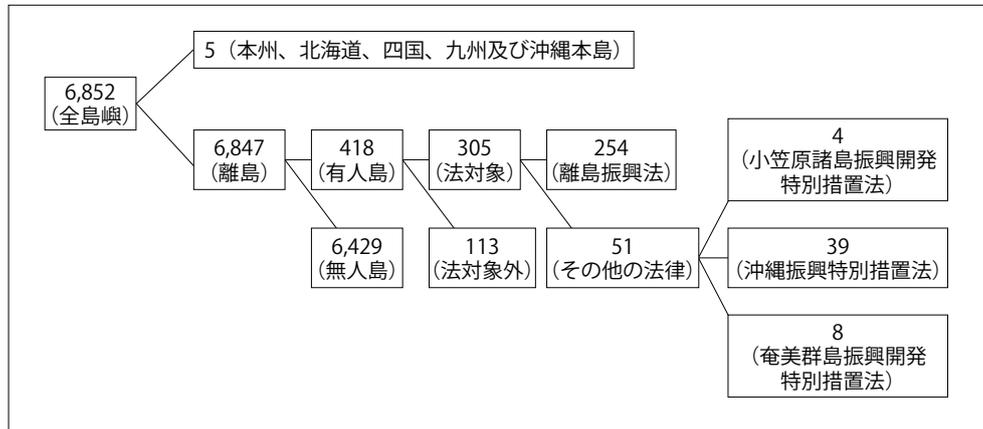
湯浅・大西・崔「2014」、中藤「2014」は、過疎地域の再生について述べている。以下、Japan Tourist Bureau (以下、JTBという) 四国による離島の地域再生への取り組みや、筆者が現地調査を実施した佐賀県唐津

\*西南学院大学 三年

1. 四方を海に囲まれていること。
2. かけ離れていること。遠く隔たっていること。
3. 狭くて小さいこと。

図 I 日本の島嶼の構成

出典：平成 21 年度 国土交通省「離島の現状について」



市の神集島の取り組みを事例として用い、観光地化が難しい高齢化・過疎化した有人離島の地域再生における観光の意義を考察する。

## 1章 離島の概要と現状

### 1節 離島の概要

湯浅・大西・崔「2014」によると、離島とは「厳しい自然的条件（環海性、隔絶性、狭小性等）により、本土との格差が大きく、多くの面で後進性を有している」地域である。現在、我が国は、6852の<sup>4</sup>島嶼によって構成される。本州、四国、九州、北海道、沖縄本島を除く6847島が離島であり、このうち421島が有人離島で6426島が無人離島である。

有人離島について国土交通省都市・地域整備局離島振興課によると421島の有人離島のうち、離島振興法による離島振興対策実施地域が261島、小笠原諸島振興開発特別措置法実施地域が8島、沖縄振興特別措置法実施地域が39島あり、312島が特別立法措置による適用を受けている。これらの離島は、<sup>5</sup>領海・排他的経済水域等の保全、海洋資源の利用、多様な文

化の継承、自然環境の保全と自然の触れ合いの場及び機会の提供、食料の安定的な供給等、我が国及び国民の利益の保護及び増進に重要な役割を担っている。

4. 大小さまざまな島のこと。
5. 国連海洋法条約に基づいて設定される、天然資源及び自然エネルギーに関する「主権的権利」、並びに人工島・施設の設置、環境保護・保全海洋科学調査に関する「管轄権」がおよぶ水域のことを指す。

表Ⅰ 人口及び世帯数

区分	単位	離 島		全 国		離 島	全 国
		2002年	2009年	2002年	2009年	2002/2009	2002/2009
人口	人	736,145	692,752	126,925,843	127,767,994	94.1%	100.6%
世帯数	世帯	286,379	284,225	47,062,743	49,566,305	99.2%	105.3%

(注) 1 離島の値は離島統計年報 [2003]、[2010] から抜粋し作成したもの

表Ⅱ 観光客数上位5県

都道府県	香川県	沖縄県	鹿児島県	長崎県	新潟県	離島全体
2003	3,070.3千人	2,215.9千人	1,881.2千人	1,712.6千人	864.0千人	15,096.8千人
2010	3,061.6千人	2,940.6千人	1,775.0千人	1,114.9千人	621.4千人	13,857.5千人

(注) 1 離島の値は離島統計年報 [2003]、[2010] から抜粋し作成。

## 2節 離島の現状

1960年代以降の日本経済の高度成長は我が国の産業構造を大きく変化させた。農林業を経済的基盤とする地方では労働力が都市へ流出し、人口減少をもたらした。経済的格差が広がった。今日、グローバル化の波が各地域、国民生活にまで及んで様々な面で格差をもたらしている。これらの影響は、本土と離れた離島にも及んでいる。本土での職や快適な生活を求め、島から人が出て行く。また、高齢化も進み、島の存続の危機に直面している島も存在する。離島統計年報により、2002年と2009年の有人離島の人口を比較してみると、この7年間で約4万3000人も減少している。7年間で約4万人も有人離島の人口が減少していくのだとしたら、100年後には離島に住む人はほとんどいなくなることになる。我々は、この数字が離島は危機的な状況であると示していることを重く受け止めなければならぬ。

次は観光客について述べる。離島統計年報「2010」によると、1年間で最も多く観光客が訪れているのは、香川県である。栗林公園や金比羅山、アト島で注目を集める小豆島や豊島が有名

で、1年間を通して安定して観光客が訪れる。次いで、沖縄県、鹿児島県、長崎県、新潟県の順である。2002年度から2009年度の離島全体の観光客数は、約1510万人から約1390万人と約200万人減っている。離島の人口と違い、離島への観光客数は年々必ず減少していくというわけではない。この離島への観光客の減少の背景には、日本の経済状況や政策、世界の経済状況など様々なことが大きく関連している。つまり、観光と経済状況は密接な関係にある。しかし、観光客数を伸ばしている島も存在するので一概には言えない。

## 2章 小さな島での

### 観光の取り組み

前章での考察から、離島の人口・観光客数が年々減少していることが読み取れる。では、この離島の深刻な状況を改善していくためにはどうしたらよいのだろうか。筆者は、改善策の1つとして観光地化されにくい高齢化・過疎化した離島もしくははまだ観光地化されていない離島を観光地化していくべきだと考える。主なメリットとして2つ挙げられる。1つは、島の活性化により高齢化・



図2 「島民と一緒に畑づくり」  
(出典) 神集島 Facebook <https://www.facebook.com/shimapic> より引用

過疎化した島の存続によりよい影響を与えることができる。高齢化・過疎化した小さな島を観光地化することで、島での雇用の場の増加や島への移住者の増加等が見込まれるからである。もう一つは、離島全体の人口・観光客数の増加を底上げできる。また、これらの島での観光地化が成功し、多くの観光客が訪れる可能性もある。以下、高齢化・過疎化した小さな島での観光地化の事例として、神集島と前島を事例として挙げる。

### 1 節 佐賀県唐津市神集島の観光政策

観光地化されにくい高齢化・過疎化した有人離島の地域再生における観光の事例として、筆者が現地調査を実施した神集島について述べる。神集島は佐賀県唐津市の北西部沖合約1 kmに位置し、人口が約600人で高齢化が進む過疎の島である。交通手段は、本土との間を約10分で結ぶ1日に4便の定期船のみである。神集島を本報告の事例として挙げた主な理由は2つある。第一に、高齢化・過疎化していた神集島に、九州大学の大学院生が地域再生を目的として1年間移住し、現地調査を行う九州唯一の取り組みが行われている。

るからである。第2に、この九州大学の大学院生を中心に SNS の Network Service (以下、SNS という) 等で情報発信を島外へ行い、観光客増加を目的に様々なイベントが実施されている地域再生に活発な島として、新聞やテレビといったメディアに取り上げられているからである。

現在、神集島では観光客の増加を目的に様々なイベントが行われている。神集島で行われているイベントとしては、島にある荒地だった場所を島民達と一緒に耕し、畑づくりをする「島民と一緒に畑づくり」や、島の祭りにツアーや遊覧船、レンタル釣竿、レンタル自転車、島の新しいお土産など、島を楽しむ企画「島ピクニック in 神集島」、焼き物づくりを楽しむ「土掘りから体験！神集島焼づくり」などが行われている。

まずは、筆者が実際に参加した「島民と一緒に畑づくり」に関して述べる。このイベントに島外から参加したのは全員で13人、イベントの内容としては午前中2時間、午後2時間、島民と協力して畑を耕すものであった。お昼には、島で採れるじゃがいも、にんじん等を使ったカレーを提供された。このイベントに参加していた

方に感想を訪ねたところ「暑くて大変だったけど、普段味わうことができない経験ができてよかったです」とのことであった。このイベントの趣旨は、普段の生活で味わうことができないような経験が神集島で体験できるということである。

そして、神集島で最も人気があるイベントは、「島ピクニック in 神集島」である。2015年7月18日(土)に開催された島ピクニックでは、200名以上の方が県内外から参加され、島のお祭りに、ツアーや遊覧船、サイクリング、海釣り、バーベキューなどが行われた。

一人2000円の日帰りで行われるツアーで、島を楽しむ豊富な企画がある。そして、参加者が回答したアンケートでは、神集島で採れる食材を主に使った神集島定食を9割以上の方が満足という結果が出た。

神集島は、他の離島と比較した時に魅力溢れる自然や歴史的遺産、豊かな幸といった特異点があるわけでもない。しかし、このようなイベントを持続的に行うことで神集島への観光客が以前と比べ増加し続けている。そのため、佐賀新聞に神集島のイベント「島ピクニック in 神集島」が掲載され、

6.『ガイアの夜明け』2015年6月30日放送分を参照した。



図2 「島ピクニック in 神集島」で行われた祭り  
(出典) 神集島 Facebook <https://www.facebook.com/shimaptic> より引用

地元テレビ局である佐賀テレビでは神集島の特集が取り上げられた。そして、今回のイベントとして「恋活・婚活島クルージング」という企画で婚活イベントが行われるということで注目を集めている。

## 2節。岡山県瀬戸内市前島の

### 観光政策

観光地化されにくい高齢化・過疎化した有人離島の地域再生における観光の事例として、岡山県瀬戸内市の前島を挙げる。前島は、人口187人、高齢化が進む過疎の島であり、交通手段は定期船のみである。では、どのようにしてこの高齢化・過疎化した前島が観光を通して地域再生を図られたのか。それは、JTBの「名もなき島に人を呼ぶ」という、これまででない、新たなツアーの取り組みによって始められた。名もなき島に人を呼ぶために最も重要となるのが、その島の強みを生かしたツアー内容を島民と一緒に考えていくことである。そのための第1歩として、JTBと島民との話し合いの場を設け、島民に前島の強みと弱みを出してもらうことによって、まずは島民とともに、前島についてより理解を深めていく。そして、ここで出てきた強み



図4 前島でのいかだ乗り体験  
(出典) 牛窓研修センター <http://www.asoview.com/company/3000004086/> より引用

を、今回のツアーのアピールポイントとしてツアー内容に組み込む。

今回、前島の主な強みとして挙げたのが、夕日、いかだ、カボチャの3つである。夕日は、日本の夕日百選に選ばれるほど美しい風景であり、穏やかな海ならではのいかだが各所に見られる。また気候を生かし、十分な甘さを引き出すことのできるカボチャの生産も盛んである。以上の強みを生かして、1泊2日、1人5000円の格安プランでモニターツアーを実施したところ、4家族13人が参加した。ツアー企画は、いかだ乗り体験やカボチャ入りぜんざいの試食、夕日の眺望を行うものだった。

このツアーに参加した方のインタビューでは、満足と答えた方が9割以上であった。そして、これらのツアーは島民の意志・意向を反映するモニターツアーでもあった。高齢化・過疎化した離島の島民とJTBという大手企業が初の共同での観光地化政策が行われ事例として注目される。前島では、「前島で自然探索ポイントラリー&アウトドア料理体験/ランチ付き1日プラン」、「前島で海辺探検&マリクラフト体験/ランチ付き1日プラン」、「ランチ付き/磯釣りにチャレンジ&釣った魚で

魚拓アートを楽しもう」など新たなプランを実施し始め、観光客の増加を図っている。

## 終わりに

本報告では、佐賀県唐津市の神集島と岡山県瀬戸内市の前島で行われている取り組みを中心に、特異点を持たない、つまり高齢化・過疎化した離島における観光について検討した。高齢化・過疎化した神集島では、九州大学の大学院生を中心に行った「島ピクニック in 神集島」に200人も参加者が集まった。また、前島では、JTBを中心に新たなツアーが開発されている。これら2つの島にとって共通していることがある。それは、島外からのリーダー的存在である。そして、島内の人と島外の人が協力し観光を行うことでよりよいものができる。島内の人しか見えない島の魅力があるように、島外の人には見えない島の魅力もあるからだ。これは、他の離島と比較したときに特異点がない離島の観光を行う際にかなり重要なことである。

この事例で挙げた2つの島は最も観光において重要なことに触れている。それは、地域の宝となる原石というのどこにでも存在す

る。しかし、他にはない独自のものにしていくためには島内の人と島外の人、さらには、島内同士の人たちが1つになって観光を行っていくことである。筆者が現地調査を実施した神集島で、ある老人にインタビュをした。「今、神集島で様々なイベントが行われています。そのようなイベントが行われることに対して不満、意見はございませんか」と質問したところ、「まったく不満などありません。感謝しています。むしろ何もできない自分が申し訳ないくらいです」との回答であった。観光において最も重要な住民の意思・意向が神集島にはあり、理想的な観光政策を行っていた。高齢化・過疎化した離島において島民の意思・意向の添った観光をまずは小さくても行うことである。積み重なっていくに連れてやがて大きなものへととなると筆者は考える。

## 参考文献

- ・岩下明裕・花松泰倫 [2014] 『国境の島・対馬の観光を創る』国境地域研究センター
- ・大西正志・崔英靖・湯浅良雄 [2014] 『地域創生学』晃洋書房
- ・神田孝治 [2012] 『観光空間の生産と地理的理想力』ナカニシヤ出版
- ・財団法人 日本離島センター [1985] 『離島振興ハンドブック』大蔵省印刷局
- ・中藤康俊 [2014] 『日本経済と過疎地域の再生』大学教育出版
- ・藤野公孝・高橋一夫 [2014] 『CSV 観光ビジネス地域とともに価値をつくる』学芸出版社
- ・山内道雄 [2007] 『離島発 生き残るための10の戦略』生活人新書
- ・神集島 Facebook <https://www.facebook.com/shimapic> (Last Visited August30, 2015)
- ・国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/000190753.pdf> (Last Visited August30, 2015)
- ・国土交通省 [http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/ritou\\_yuusiki/dai02/2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/ritou_yuusiki/dai02/2.pdf) (Last Visited August30, 2015)

# 山中鹿次\*

## 抄録

日本各地で世界遺産登録や、埋蔵文化財の遺物の増加が相次ぎ、それを展示する博物館の役割が高まっている。近年は新築された九州国立博物館や、島根県立古代出雲歴史博物館の盛況の一方で、一部、閉館や休館に追い込まれる博物館もある。博物館が観光・集客を軽視することはできないが、一方で観光や集客を重視しすぎると、教育や研究目的での来館が減り、繰り返し来館する入場者が減り、観光、集客にもマイナスになる側面も懸念できる。

このような博物館、とくに歴史系博物館の観光の現状と課題、今後への提言を報告する。

# 博物館観光の現状と課題

## —— 歴史系博物館を中心にして ——

### 1 はじめに

日本国内での世界遺産指定地の増加や、長年続いている埋蔵文化財の発掘調査の遺物の増加。あるいは電化製品の普及時期の展示など、博物館、特に歴史展示を中心とした博物館の新設が近年相次いでいる。

また今世紀に入り、日本国内での博物館事情は大きく変化している。IT化に伴い、展示の進歩や、社会全体の意識が公共施設のサービスや採算性を重視するようになり、博物館に対するニーズが、教育、研究から観光拠点としての機能が強く求められるようになった。だがそのことが博物館本来の目的を逸脱し、逆にリピーター入館者を減らす結果も危惧される。

昨今の注目すべき博物館を歴史系を中心に紹介し、観光と博物館について報告・問題提起を行うものとする。

### 2 平成時代以降に新設博物館とその成功事例

時代が平成に突入してから、全国の大都市が市制施行100周年、バブル経済。バブル経済崩壊以後の公共施設の営利性追求の流れの中で、各地に大規模博物館が

\* NPO法人近畿地域活性ネットワーク代表



(写真1) 九州国立博物館



(写真3) 出雲大社



(写真2) 古代出雲歴史博物館

新設されている。その主な物と観光振興での成功例を報告する。

2005年10月に開館した九州国立博物館 [www.kyuhaku.go.jp] は開館7年で入場者が1000万人を突破している(写真1)。

この博物館は菅原道真を祀る太宰府天満宮に隣接し、西鉄太宰府駅から徒歩5分程度で行ける好立地にある。

また有名神社に隣接している博物館に、島根県立古代出雲歴史博物館 [http://www.izumed.jp] がある(写真2)。

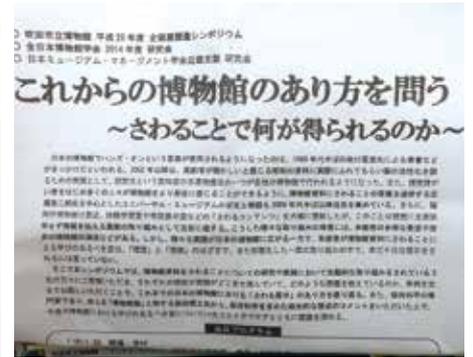
古代出雲歴史博物館も開館し7年5カ月で来館者が250万人を突破し、九州国立博物館のように、人口約150万人を超える政令市の福岡市のような大都市が近郊にないことを考慮すると、非常に多い来館と言えるのではないかと。

また市街地に立地する新しい博物館として、長崎歴史文化博物館が注目できる [http://www.nmhc.jp/]

この博物館の場合、年間60万人を超える来館者があるが、夏場の日没が遅い時期は午後6時以降も開館していたり、修学旅行者が被災地や天主堂を訪れる前に来館しやすいように、午前8時半から開館している。



(写真5) 昭和の時代に家庭で使われた電化製品などの触る展示



(写真4) 研究会プログラム

### 3 触れる展示と 体験型プログラムの増加

最近の博物館の動向で増えているのは、触れる展示と体験型プログラムの増加がある。

昨年2014年7月、日本ミュージアム・マネージメント学会や全日本博物館学会の研究会が開催された吹田市立博物館が触れる展示を重視している [www.suita.ed.jp/haku/]。

この博物館の立地する吹田市が千里ニュータウンの建設や、1970年度の大阪万博の会場地であり、大都市近郊で竹藪と農村から住宅地への変貌も著しかった地域である。写真に写る子どもらの祖父・祖母らが子どもの頃に電話や電動ミシンが急速に普及した時期で、その初期の製品が非常にノスタルジーをそそるため、家族連れや孫を連れた高齢者にも好評である(写真5)。

また博物館で近年増えているのは体験型プログラムである。代表的な博物館として兵庫県立考古博物館があげられる [www.hyogo-koukokuhaku.jp/]。

この博物館では(写真6、疑似発掘調査現場で、小型スコップや測量道具を用いて、実際の発掘調査現場での発掘の様子を体験でき

る)、開館当時から一方的に見るだけでなく、見学者がいろいろ参加できることが重視され、勾玉作りや土器の焼成体験など様々な体験プログラムが用意されている。

但し、吹田市立博物館での研究会での意見や、博物館、文化財関係者との意見交換でも、美術系の学芸員の場合は、絵画や彫刻のように有名人が創作し、手に触れないことを前提にし飾るもの、それを一般の方が触れることを前提にしないため、実際に触れることに抵抗を感じるケースは多いようである。

だが毎年増加する遺跡からの出土遺物で割れた埴輪の破片など復元には至らない遺物でも、実際の遺物に触れることの満足感は大きく、レプリカを含め、触れる展示と実際に当時の土器など作成する体験プログラムは、教育的見地と観光振興の両面から増えるのではないだろうか。

#### 4 博物館観光の困難要因

博物館観光に於いて最も困難な要因が、博物館の立地が設置の趣旨から、関連する遺跡に隣接して建設された場合、来館者が伸び悩むことがあげられる。

奈良県五條市の五條文化博物館は、金剛山麓の風光明媚な場所にあるが、五条駅から片道4km離れ、近くに行く路線バスもないため1995年の開館時には年間2万人の入場者が、年間入場者は近年5千人程度に落ち込み、2009年4月から2年間休館し、地元団体の管理 [http://www.gojobaun.jp/] で再開に至っている。

またやはり近所に駅がないことがネックになっている博物館として、大阪府立近つ飛鳥博物館がある [www.chikatsu-asuka.jp/] (写真7：1994年の開館年度は26万人を越す入場者があったが、以後は年々参加者が減少し、2000年頃から年平均10万前後の入場者で推移している)。

この博物館は世界的建築家の安藤忠雄氏の設計で、大阪の古墳に関する展示を中心に、国史跡の古墳群を整備した風土記の丘公園の中にある。

公園との一体性や展示意図から

すると、いい立地と言えるが近くに最寄駅がなく、路線バスの利用が車での来館となる。

古墳時代に大きな関心があればともかく、少し見に行ってみようかという程度の人など、来館したい意欲を削いでいるのが実情である。

#### 5 採算性重視・類似施設の近接問題・博物館観光の今後への提言

博物館観光を考慮する場合、採算性重視主義が観光振興を考慮する場合、大きな課題となる。また類似施設の近接をどう考えるかも大きな課題となる。

2008年に就任した橋下徹府知事の方針で、赤字の公共施設の売却方針が検討され、和泉市にある大阪府立弥生文化博物館 [www.kanku-city.or.jp/yayoi/] (写真8) もその候補になった。

反対署名活動などでなんとか阻止できたものの、経費に対して入場料収入の方が少ないという論法と、考古遺物を展示するのであれば、近つ飛鳥博物館があればという論法である。

弥生文化博物館は和泉市、泉大津市にまたがる弥生時代の国史跡の池上曾根遺跡に隣接し、歴史に



(写真7) 正面から見た近つ飛鳥博物館



(写真8)



(写真6) 発掘体験ゾーン



(写真 9) 橿原市博物館全景



(写真 10) 橿原考古学研究所附属博物館館内

かなり興味関心があり、旧国名で言えば近つ飛鳥は河内、弥生文化博物館は和泉になるので、行政改革の観点で言えば、類似施設となるが、リピーターになりやすい文化財職員や歴史愛好家にとっては別の施設である。

観光振興を考えた時にも、採算性重視主義や近接を理由に一方を閉じることは得策とは言い難い。たとえば奈良県橿原市には奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 [www.kashikoken.jp/museum/] から約 2 km 南東に橿原市立の橿原市博物館が 2014 年 4 月に開館している [http://www.city.kashihara.nara.jp/hakubutukan.]。

しかし後で出来た橿原市博物館は国史跡の新沢千塚古墳群に隣接し、江戸時代の今井町の展示解説など、橿原市内の展示が主体で、奈良県のような歴史資産が豊富な地域であれば、行政効率での「ムダ」ではなく、複数で観光振興と教育面から補完しながら充実を図るべきではないだろうか。

現在、関西ではミュージアムぐるっとパス [http://www.museum-cafe.com/gruttokansai] とよばれる 50 以上の博物館・美術館に割引入場できるパスが発行されている。今後、四国・東北と

いった単位でこのようなパスの発行を提案したい。

#### 参考文献

上記に示した関連ホームページ、2008 年発行、和泉書院『関西を創造する』宇野隆夫「考古博物館の将来像」2014 年、全日本博物館学会他「これからの博物館を問う」プログラムなど。

# 青山和夫 (2012)

## 『マヤ文明 —密林に栄えた石器文化—』

### 岩波新書を読む

古畑 正富

KOBATA Masatomi

本書の構成は、次のとおりである。はじめに／目次／第1章 マヤ文明とは何か／第2章 マヤ遺跡を掘る／第3章 諸王、女王、貴族たち／第4章 農民の暮らし／第5章 宮廷の日常生活を復元する——アグアテカ遺跡／第6章 マヤ文明の盛衰は語る／あとがき。かくして、本書は考古学の観点に基づき、マヤ文明の背景を叙述しつつ、生活誌の歴史の実像について要領よく説明するが、入門書の性格上、一般読者に配慮する必要があり、綿密な注は付されず、参考文献や図版を含めた、学術的な議論も制限されている。だから本稿が留意するのは、難解な専門知識に寄り添い、晦渋な文章を書くことより、むしろ歴史学界の趨勢を踏まえ、啓蒙的な狙いも付けて、マヤ文明と高校世界史の混成軌道を描く試みであると思う〔青山和夫 (2013) 『古代アメリカ』第16号、85-100頁を参照〕。

ここで特筆したいのは、宗教を通して農民が象徴化した「神聖王」の威信に他ならず、とりわけ、チ

チェン・イツァにおける雨と稲妻の神チャーク（チャック）をめぐる逸話は、テレビアニメ『ゲゲゲの鬼太郎（第2期）』第44話（水木しげる原作／1972年9月21日放送）などを通じ、日本人にもよく知られている。むろん、最近の研究に照らしてみれば、雨乞いのため、「多くの処女が天然井戸・泉（セノーテ）へ生け贄に投じられた」（下線筆者）との説は誇張に過ぎず、チチェン・イツァの儀礼に際し、主に供物を捧げた可能性が推定されている。しかし、今日的課題として、自他を繋ぐ教養たる高校世界史の円滑な教授法を考案するなら、民俗学の〈雨乞い地蔵〉の事例を比較検討するとき、生徒たちの間に浸透したポップカルチャーとの接点を探し、多様かつ効果的な媒体が駆使されて然るべきであり、対話型教育の現場に生きる高校教師たちの流儀および時代感覚、すなわち、彼らの人格と史眼を横断的な「歴史理論」へ組み込むことによって、遠い外国に住む日本人が身を挺し、遠い昔のマヤ文明を学ぶ気持も、若く進

歩的な立場から湧出するはずだ。

興味深いことに、古典期のマヤ文字はピラミッドを「ウィツ（山）」と呼び、当時の人々が顕わす「山信仰」を表現しているが、それはまさしく、日本人の心境に脈々と受け継がれた、荘厳な〈神殿〉に相当する富士山への想いに共鳴を示すものであり、過去と現在のパートナーシップ——双方の連続性を理解する道標になるだろう〔小松左京 (1967) 『神への長い道』を参照〕。したがって、本書が随所に、マヤ文明の本質的な身体論を「現在進行形の生きている文化伝統」の見地で解明しようと布石を打ったことは注目に値する。なぜなら、細分され煩瑣な場に変化した、歴史という密林の奥へ分け入ることを躊躇し、我々はとかく洞ヶ峠の状態に陥るけれど、本書が凝視する地平と同じく、ものがたり観光行動学会も、安易な「謎と神秘」の捏造・再生産とその消費傾向を固く戒めてきたからである。

# 「ふるさと納税」政策による ものがたり観光促進

Promoting Narrative Tourism By Using “Hometown Tax” Policies

## 要約

本稿では、「ふるさと納税」政策の効果の一つとして、「ふるさと納税」先地方へのものがたり観光促進の効果を考察する。本来は任意の地方自治体への寄付である「ふるさと納税」には「返礼品」が存在するが、たいいていの地方自治体は、地域経済促進という理由もあり、地元産品を返礼品として贈っている。それは、その地域では入手が容易なものであるが、「ふるさと納税」者の都市民にとっては、入手が困難、もしくは都市では高価なものであり、ありがたがられる。「ふるさと納税」は、主に節税策や返礼品目当てで行われるが、その返礼品が、「ふるさと納税」者の期待を上回るものであれば、「納税」者である都市民はその地域への魅力を感じる。都市生活のなかで、これまで無関心であった地域から魅力的な返礼品が届くと、その地域が都市民の意識下へ入り興味関心がわく。返礼品は、地域の魅力が詰まったものであれば、それはその地域の「ものがたり」のメディア（媒体）となり、都市民の観光行動を誘発する。加えて、その地域に愛着を持ってもらえれば、再度の「ふるさと納税」や、取り寄

せ注文をしてもらえる可能性も高い。したがって、「ものがたり」のある返礼品を地方が用意すれば、それはものがたり観光行動を誘発し、結果として地域活性化に大いに役立つ。

## 1. 「ふるさと納税」とは何か

「ふるさと納税」の根拠法は、地方税法37条（寄付金控除）の2<sup>i</sup>で示されている。「道府県は、所得割の納税義務者が、前年中に次に掲げる寄附金を支出し、当該寄附金の額の合計額（当該合計額が前年の総所得金額、退職所得金額及び山林所得金額の合計額の百分の30に相当する金額を超える場合には、当該100分の30に相当する金額）が2000円を超える場合には、その超える金額の100分の4に相当する金額（当該納税義務者が前年中に第一号に掲げる寄附金を支出し、当該寄附金の額の合計額が2000円を超える場合にあっては、当該100分の4に相当する金額に特例控除額を加算した金額。以下この項において「控除額」という。）をその者の第35条及び前条の規定を適用した場合の所得割の額から控除するものとする。この場合において、当該控除額が当該

i 「個人の道府県民税」の第一目、「課税標準及び税率」の項目の一つ。

\* 熊本学園大学商学部ホスピタリティ・マネジメント学科特任講師

所得割の額を超えるときは、当該控除額は、当該所得割の額に相当する金額とする。」から来ている。法律用語なので非常に難解であるが、要約すると、納税者自身の住む<sup>ii</sup> 地方自治体以外の地方自治体に、「寄付」を行うと、自身の地方税の一部から寄付金控除を受けられる、ということである。

実際は「寄付」であり「寄付金控除」なのだが、あたかも、他地方に「納税」してその代りに自身の住む地方の地方税を減額してもらうように見えることから、「ふるさと納税」という、よく言えばわかりやすい、悪く言えばあいまいな表現で表しているのである。<sup>iii</sup> また、「ふるさと」という呼称を用いているが、生まれ故郷や過去に住民票住所を置いていた地方以外であっても、寄付先の自治体は、自身の自由に選択できる。

この「ふるさと納税」は、これまで（平成26年度まで）は控除を受けようとする<sup>iv</sup>と必ず確定申告が必要であった。しかし、本年度、平成27年度から、さらに手続きが簡略化され、一定の条件を満たせば確定申告なしで自身の地方税から減額されるようになった。この条件は、「ワンストップ特例」と呼ばれるもので、主に納税額の少ない人々を対象にしており、「ふ

るさと納税」の裾野はさらに広がっていくものと想定できる。

この制度の平成26年度の適用者数は13万3928人、寄付総額は1418万9345円で、控除総額は606万2439円である。制度が始まった平成21年度から平成23年度までは、適用者数は約3万人台で大きな増加はなかったが、平成24年度に約74万人と急増する。これは、東日本大震災の被災地への「ふるさと納税」が急増したからである。その後、平成25年度は約10万人に戻っている。

## 2. 「ふるさと納税」の現実

前章の最後では、東日本大震災後の寄付支援が、「ふるさと納税」という形で行われたことを述べた。

しかしながら、「ふるさと納税」制度の知名度を上げたのは、「寄付」した自治体から送られる、「返礼品」の存在であろう。海岸部の自治体からは海の幸、山間部の自治体からは山の幸や地酒、酪農中心の地域からは肉類や乳製品、果物のとれる地域からはその果物やゼリー、ワインなどの加工品、さらには、精密機械工場のある地域からはノートパソコンなどまで、多種多様な返礼品が用意されてお

り、返礼品目当ての「寄付」が行われているのもまた事実だ。

これに対し、危惧する声も挙がっている。例えば、西村貢岐阜大学教授は、平成27年6月27日付の毎日新聞愛知地方版で、「ふるさと納税」を「画期的な制度であるが、自治体の『ふるさと納税集金合戦』になっており、意義を忘れてかけている」（一部要約）と論じている。

実際に、「ふるさと納税」のポータルサイトなどで調べてみると、沿岸部でもないし加工工場があるとも思えない自治体が、返礼品としてスモークサーモンを出している<sup>iv</sup>など、その地方とは全く無関係の「不自然な」返礼品を出している自治体も複数存在している。「ふるさと納税ポータルサイト」上では、返礼希望品に「スモークサーモン」や、あるいは「海産物」と入力すると、その市町村もリストに上がるため、少しは「ふるさと納税」が期待できるのである。

また、今年度からの手続き簡略化に伴い、換金性が高いと総務省が判断した返礼品に対しては、行政からの指導が入るようになり、中止を余儀なくされた。例えば、図書カードや宝くじ、あるいはTポイントやDMMポイント、

iii そのため、「ふるさと寄付金」という表現を用いている文献やホームページ等もある。

iv これは和歌山県高野町のケースだが、決して高野町に限ったことではない。

- v ある意味、本来の「『ふるさと』納税」の意義に合致している、というべきかもしれない。
- vi 関西国際空港のある大阪府泉佐野市、長崎空港近辺の長崎県東彼杵町、沖縄那覇空港近辺の沖縄県糸満市。このうち糸満市は、観光需要を期待してマリンレジャーのチケットも付く。
- vii 福岡県行橋市。こちらはマイルージ扱い。隣接する北九州市に北九州空港があり、スターフライヤーの拠点空港である。
- viii 農業経済学の古典理論。農産品は、重量がかさむものであればあるほど、また、都市までの移動距離長くなればなるほど、移動コスト高となり、都市での販売価格は高くなる。

純金製の手裏剣などがその対象となった。これらの返礼品は、地域性の有無とは関係なく、換金性の高さで指導が入った。例えば、金の手裏剣は、忍者の里として知られる三重県伊賀市の返礼品であるし、DMMポイントは今日では多角企業と化したDMM社の創業の地である石川県加賀市の返礼品であった。

しかしながら、これも今のところ(平成27年7月現在)ではあるが、一見すると換金性が高そうでも、地元(寄付先)への寄与が大きいであらうと考えられる返礼品に関しては、「お目こぼし」が許されているようだ。典型的なものは、地元商店街で使える商品券の類である。これも、例えば、両親が住んでいる自治体へ「ふるさと納税」を行い、返礼品として地域商品券を受け取り、それを両親へ送れば、送金として十全に機能する<sup>v</sup>。また、LCCのビーチ航空(Beach)の本拠地である関西国際空港や、その就航地の空港周辺の自治体<sup>vi</sup>が、ビーチの航空券を払いに利用できるビーチポイントを返礼品にするのも、今のところは問題がないと考えられているようだ。同様の制度はスターフライヤー航空<sup>vii</sup>でも存在する。

さて、筆者は、本年3月、実験

的に島根県某市へ、「ふるさと納税」を1万円試みてみた。この某市は、各地方自治体の中でも、きわめて積極的に「ふるさと納税」を推進している市である。多種多様な返礼品を、すべて地元の産品で用意し、「ふるさと納税ポータルサイト」での広告PR活動も行っている。また、この某市の企画財政部市民政策課「ふるさと寄附」推進チームが、某市の「ふるさと納税」集金策をパワーポイント形式で公開していたため、調査に適切であらうと判断したからである。某市では、平成25年度、「ふるさと納税」額が1億1545万円に達した。これは島根県で最高額である。

筆者は、この某市に1万円の「ふるさと納税」を行い、返礼品に鯨鰯鍋セット(アンコウ一匹使用)を受け取った。公開されている資料によると、約半額の返礼品、すなわち5000円相当の返礼品を送付している、のとこのとで、この5000円に、送料や消費税を含む、となっている。そこで、同一地方でほぼ同一の鯨鰯鍋セットを楽天市場で価格を調べたところ、送料抜きでおよそ3000円を少し上回る金額であることが分かった。これに送料、保冷費用等を考慮すると、

5000円ではほぼ辻褄が合う。従って、この鯨鰯鍋セットは、現地某市の魚屋で3000円を少し上回る価格で販売されていることに間違いはない。

しかし、もう少し考慮すると、さらに深い部分が見えてくる。この地域は、アンコウの産地である。すなわち、地元の港で水揚げし、それを最も近い魚屋でさばいて、宅配便にして送られたわけである。チューネン圏の理論<sup>viii</sup>を出すまでもなく、この魚屋は、都市部の魚屋と同じ品質、鮮度のアンコウを入手する価格よりもはるかに安値で仕入れることができるのは間違いがない。しかも、某市から魚屋に支払いがあったのだから、その支払った金は、地元の魚屋(小売店)のみならず、市場や漁師の収益にも寄与している。地産地消のあるべき最も適切なモデルが、この時点で形成されている。そして、筆者は、筆者の地元小売店で購入するには推定7000円以上、楽天市場のようにやや中間コストを下げた店舗で購入しても5000円するアンコウを、(地方税控除などを考慮に入れると)実質2000円で返礼品として受け取ったことになる。

今から11年前の2004年、もちろん当時は「ふるさと納税」

などというシステムは存在しなかったのだが、当時はしきりに「地産地消」が話題にあがっていた。しかしながら、言葉のみが先行し、それを地方がうまく活用できておらず、「地産」を「地消」しようにも、地元の人以外に消費してくれる人がいない、という状態であった。そのため、北海道紋別市の当時の市長のA氏は、当時の筆者のインタビューに、「地産地消などありえない。あれは中央の役人が、地方の現実を何もわからずに騒いでいるだけで、全く誤った政策だ。」と、怒気をはらみながら唸ったのを記憶している。それが、このような形で、少なくとも地産地消のよき一つの形が実現できつつあるのだ。

### 3. 都市民の地方へのあこがれ

都市民は、都市の生活に疲れ切っている。「ハレ」と「ケ」で言うところの「ケ」が毎日続いている、収入の多い少ないにかかわらず、日常の業務と仕事に追われ、都市生活から抜け出すことなどできない。また、都市の物価は高く、ブランド食品など、「ものがたり」の付いたもの（無機物でも食べ物でも）には手が届きにくい。

そのような理由で、都市民は「ハレ」に飢えている。また、「ものがたり」にも飢えている。言い換えれば、「祭り」や「旅行」を欲している。それも、都市への旅ではなく、地方、あるいは田舎に行きたいと望んでいるケースが多々見受けられる。しかしながら、日常の忙しさの為、地方や田舎の情報を得ようと思っても、なかなか得られないのが、都市の生活の現状である。つまり、旅をしようにも、「ものがたり」を知ろうにも、どこに行けばいいのか、どこに自分の欲する「ものがたり」があるのか、それを見つけれない。見つけるきっかけが得られないからである。

結局、温泉地などの有名観光地か、「冬のカニ食ベツアー」などのありきたりなバスツアーなど、知名度のあるところに行ってしまう。自身の本当に見たい、あるいは知りたい、学びたい、深い「ものがたり」を有している地方が見つけられないのだ。

これは、彼ら都市民が情報の入手を怠っているからではない。関心を持ちたくても、そのきっかけが得られていない状態である。きっかけがなければ、関心を持つ手段がない。テレビで見た、タクシー車内のラジオで聴いた、駅の

広告を見た、仕事の際に偶然書類で名前を見た、インターネットでたまたま見たサイトのバナー広告である地方の宣伝が出ていた、など、そういったきっかけがないと、人の意識には上がってこないのである。知識の0と1の差は無限大であり、1の知識量があれば、興味があれば今日ではいくらでも自身で調べ出せる。もっとも、これは、その人が興味を持っての話ではあるが。インターネットで検索をかけることができるのは、自身が知っているキーワードのみである。本でもインターネットでも講習会でも、自身が全くの無知なことについては何も教えてはくれない。

繰り返すが、ある程度財政的に余裕のある都市民の一定数は、地方や田舎に旅に出たいと思っている。しかし、その地方の「ものがたり」を知る「きっかけ」がないため、どこを訪問するのが自身に良いのかが分からず、結局、ありきたりな観光ツアーのパッケージか、有名観光地に向かってしまう。

逆に、地方、すなわち都市民に情報発信する側は、一般には、たくさんの方々の媒体に出した、という数の成果ばかりが強調される傾向にあるが、どれだけたくさんの方々の



(写真1)

に出したかではなく、どれだけ都  
市民の目につきやすいか、興味を  
引きやすいところに露出したか、  
が重要である。自身の町や村の  
「ウリ」を確認し、その「ウリ」  
を買ってくれる人々のいるところ  
に露出していくことは、非常に重  
要である。

たとえば、河童伝承のある地域

で、河童のミュージアムがあり、  
村の有志たちが河童の人形を作り  
展示会をしているような村なら、  
造形物のイベントなどに出すのも  
良い案であろう。

写真1は、高知県四万十町が平  
成27年7月26日に幕張メッセで開  
催された、造形物、フィギュア、  
ドールの世界的展示会である、ワ

ンダーフェスティバル2015  
夏に展示したときの様子である。

四万十町は、このイベントの主催  
企業であるフィギュアメーカーの  
ミュージアムと、元々から有す  
る「ものがたり」である河童伝説  
に関する展示館を有しており、毎  
年、地元有志が河童のフィギュア  
や人形、木工細工を作り、「カッ  
パ造形大賞」と銘打って腕を競っ  
ては、このイベントに出展してい  
る。今回で4度目の出展となり、  
四万十町は、フィギュアやガレ  
ジキット好きのワンダーフェス  
ティバル参加者には名の知れた  
地域となっている。そのため、  
四万十町はアクセス困難な地域で  
あるにもかかわらず、一定の観光  
客とミュージアム訪問客を確保で  
きている。「ものがたり」を適切  
に発信できている例である。

あるいは、インターネット上で  
あれば、興味も関係もないのに頻  
繁に表れるような、間違ったター  
ゲットを狙ってしまった形のリ  
ンダムのバナー広告ではなく、  
関係するサイトの横にちょっとあ  
らわれる感じのバナー広告や地方  
の情報などが良いであろう。例え  
ば、楽天市場のオレンジジュース  
の販売ページ(写真2)に、産地  
や加工場のある愛媛県の市町村の  
広告が出てきても、何もおかし



(写真2) 楽天市場 えひめオレンジサイダー「amanza」販売ページ  
(サイトアドレス) <http://item.rakuten.co.jp/matsu-info/tag-416/#tag-416>

はないし、違和感もうっとおしきもない。この写真2のように、地方のアンテナショップを、従来のように都市部の一等地に建てるのに代わって、ネットモールに設置するのも、地域のイメージを都市民に与える効果的な方法である。このような都市民の目につく効果的な方法を、発信する地方側は狙って行かなければならない。

#### 4. 「ふるさと納税」と、

##### その返礼品が、観光動機

##### 「ものがたり」となる

第2章で、チューンネン圏のモデルを引きながら、モノは地域によってその価格が大きく変動することを簡単に述べた。米国や中国のような大きな国の内陸地で海水魚を買おうと、どれほど高価であるかを想像すると容易いが、これは日本でもほぼ同じことである。例えば、筆者の生れた京都では、子供時分、鮮度の良い海水魚がなかなか手に入らなかったのを覚えている。時間をおいても鮮度を保てるハモが、今では京の夏の魚として売りに出されているが、それは、他に新鮮な魚がないことの裏返しでもある。逆に、現在は筆者は兵庫県の沿岸部の市に住んでいるので、近所のスーパーでも極めて鮮度の良い魚が買える。同じ品質のモノを京都で買おうとすれば、大変高価となる。冷蔵冷凍技術が発達した今日でも、これはいまだに続いている。というのは、京都は京都で、兵庫は兵庫で、つまり、それぞれの地方はそれぞれの地方で、食文化として根付いてしまっているからである。それゆえ、他の食品が入り込む隙がなかなか

きず、結果として店頭に並びにく

かったり、並んでも高価であってしまふ。

したがって、2章で述べたように、その地方の特産物を「ふるさと納税」の返礼品として貰えることは、その産品がなかなか手に入らない地域の住民にとっては、それを欲している場合、とてもありがたいこととなる。そして、発送する側は、仮に受け取る側の地域でそれを入手する場合の価格よりも、はるかに安価で入手し発送できる。送料がかかっても十分にメリットがある。

しかし、メリットはそれだけではない。この返礼品こそが、観光動機となりうる可能性が充分にあるのだ。都市民は、はじめは節税目的、あるいは返礼品目的で「ふるさと納税」を行っているが、その都市民が期待していた以上に魅力的な返礼品を送ることにより、都市生活の「ケ」に浸った都市民には、その地方が魅力的に映る。それは直接、その地方への観光動機となりうるのだ。その地方の産品である返礼品は、その地方の「ものがたり」を持っており、それを収穫したり栽培したり採収したり漁をする人々固有の「ものがたり」がある。都市民はそういったものを見たいと欲するようになる。



(写真4)



(写真3)

(写真3) (写真4) ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」  
(サイトアドレス) <http://www.furusato-tax.jp/> (写真3、4共通)

その返礼品が、すでにブランド化されていれば、それに越したことはないが、まだブランドとして定着している必要はない。都市民が欲しくて、地域で価格や手に入り易さに差があるもので、地元の人々が自信がある物で良い。あるいは、その地方の小さな町工場や家庭の副業などで作っている洒落た何か<sup>ix</sup>などでもよい。あるいは、その地方と周辺地方でしかあまり食されない食文化のもの<sup>x</sup>などでもよい。あるいは、高知県奈半利町のように、「その日揚げた定置網の中身全て、何が出るかはわからない」という「なはり海の幸福袋セット」などというのも、ギャンブル要素があつて魅力的だ。それらは、全て「ものがたり」のメディア（媒介・媒体）として機能する。

地方がそのような魅力的な返礼品を出しても、出していることには都市民が気づかないのではないか、やはり地方の知名度こそが大事なのではないか、本末転倒であるとの反論があるかもしれない。しかし、その心配はない。災害での寄付金的意味合いなど、特殊な事情の「ふるさと納税」でない場合、返礼品目的の「ふるさと納税」者は、「ふるさと納税ポータルサイト」の類を使う。写真3、

写真4にその画像を出すのが、このように、返礼品を検索できるシステムとなっている。また、特に欲しい返礼品が定まっていないう「ふるさと納税」者には、写真4のように「お勧めの返礼品」リストを出したり、地方側が広告をうったりしている（写真4の右端の列）。

ある意味、これらの特別な返礼品をもらおうとしている都市民は、「トンガリ（変わり者）」かもしれない。一般的な「ふるさと納税」者は、松坂牛や毛蟹などの、有名で高価な返礼品に移りすぎるだろう。しかし、そのような都市民は、返礼品の「ものがたり」を読み取ってくれる可能性は低く、結局観光客としては最初から期待できない。それよりも、ポータルサイトなどで「発見」し、それにお金を納めてくれた、（良い意味



(写真5) eco-pochi  
eco-pochi 公式サイト (<http://www.eco-pochi.jp/>) より

ix 熊本県天草市の返礼品である、竹炭を用いた観葉植物の植木鉢「eco-pochi」(写真5)など。

x 例えば、北海道の筋子など。道外に出回る際には、ほとんどがいくらとなり、筆者は、函館市の魚屋に、「筋子が好みで買って宅送したい」と伝えると、「兄さん食通だねえ。本州の人はほとんど知らないのに」と驚かれた経験がある。他にも、愛媛県鬼北町の返礼品のキジ肉や、福岡県八女市の巣蜜（蜂の巣の状態の蜂蜜）など。これらは、当然ながら、都市では出回らない。

での「トングリ」のほうが、「ふるさと納税」先の地方に興味を持ってくれる可能性は高い。返礼品に「地域の案内」のような小冊子を添えると、さらに愛着を持ってくれる可能性もある。「無関心」だったものを「意識下」にもってくるだけで、人はかなりの愛着がわくものである。第3章で述べたように、都市民は地方や田舎に、一種のノスタルジックな憧れを持っていつつも、その情報を得られない、得る機会や方法がない、といった状況にあるのだ。

仮に「ふるさと納税」者の一割でもその地方を観光に訪れてくれれば、その返礼品程度の価値は、安いものとなる。ひとたび観光に来てくれて、その地域を気に入ってくれば、また「ふるさと納税」してもらえらる可能性も上がるし、再訪してもらえらる可能性もある。あるいは、今度は返礼品ではなく、取り寄せで注文してもらえらる可能性も高い。このように、「ふるさと納税」制度を、地方がうまく活用すれば、都市民との交流と地域活性化において、良い循環を作っていくことができる。都市民がその地域に対し「無関心」であったものから、まずは「意識下」に、そして「関心」を持ってもらうようになるという

は、このような良い循環を構築できることである。そのためにも、都市民の期待を上回る返礼品を返すことは、その地域の産業活性化にも、都市民へのメリットとしても、そして何よりその地域への効果としても、重要なことである。ややもすると地方同士の「集金合戦」になりがちな「ふるさと納税」制度であるが、「集金合戦」の結果よりも、これははるかに重要なことである。

したがって、「ふるさと納税」によるものがたり観光促進では、都市では高くて入手しにくいがその地域では比較的安価で入手できる産品や、地域の人々が自信を持って都市民に誇れる地元産品を、地元民自らがその価値を認め再発掘することである。そしてそれらを返礼品として、都市の中で「ふるさと納税」してくれた「トングリ」に贈り、その産品に秘められた「ものがたり」に興味を持ってもらい、ひいてはその地域そのものに関心を持ってもらい、ものがたり観光客として訪問してもらおうことである。

これこそが、本来の「ふるさと納税」の目指すべきゴール地点の一つである。

## 参考文献

- ・ワンダーフェスティバル2015 [夏] カタログ  
(ワンダーフェスティバル実行委員会編集・発行)
- ・毎日新聞愛知版平成27年6月27日付記事  
[「ふるさと納税」過熱 制度の意義を忘れずに 岐阜大学地域科学部・西村貢教授]
- ・総務省 | ふるさと納税ポータルサイト  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_zeisei/czaisei/czaisei\\_seido/080430\\_2\\_kojin.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html)  
(平成27年7月20日閲覧)



# 旅の酒ものがたり

TAKADA Masatoshi

高田公理\*

いろんなものが怖い：

「怖がり」という資質

「怖がり」というのであろう。いろんなものが怖い。飛行機の揺れ、治安の悪そうな外国の街、癌、エイズや肝炎……怖いものは多岐にわたる。

にもかかわらず、機会に恵まれると、未知の場所への旅がしたい。初めての珍しい料理や酒に出会うと、「ちょっとヤバイかな？」と思っても、なかなか手が引っ込められない。「怖さ」への憶病と「体験してみたい」という好奇心が、いつも背中あわせでせめぎあう。困ったものだ。

20年ばかり前に、アフリカへ

行った。400万年以上もの昔、

気候が乾燥してジャングルからサバンナに追いだされた人類の祖先が、厳しい環境にさらされたことで、ヒトという動物への第一歩を踏み出したグレートリフトバレーを縦走するためである。当然そこにも、いろんな酒があった。

その日、ナイロビの空港を早朝に出発し、ケニアとタンザニアの国境を超えて10時間、サバンナを貫通する道路を四駆で走破してンゴロンゴロの外輪山頂に到着した。とっぷり暮れた紫色の空のもと、茅のような植物繊維製のトンガリ帽子を頂くロジジのまわりには池がめぐらしてある。気温は高原のため、肌寒かった。しかし、

\* 武庫川女子大学 名誉教授



フェズ旧市街遠望

あたりには野太いウシガエルの声が響き、そこが赤道直下なのだと知らされる。

全身のホコリをシャワーで洗い流し、固いが滋味に満ちたステーキ肉をほおばる瞬間の直前、冷えたビールを喉に流しこんだ。銘柄はタンザニア産「キリマンジャロ」——最初の宗主国がドイツだったせいか、それまでに飲んだどのビールよりうまい。思わず頬の筋肉が緩んだ。

今度の旅は幸先がよろしい。ならばロッジを出て、近くの街の酒場を試してみよう。ドライバーに頼んで、麓のナマンガという街の酒場へ繰りだした。裸電球の弱々しい光がもれるブロック造りの酒場に入る。と、ラジカセから流れるラップに乗って、肌が黒光りする老若男女が身を揺すりながら、何かをラッパ飲みしている。

ビールを注文した。おばさんが栓を抜いたのはフアントの瓶である。

「?????」

口に含むと、酸味と炭酸の刺激が舌を刺した。腐敗したバナナのような匂いも怪しい。「うっぶ」となって、ハンカチに吐き、舌と唇をぬぐった。と、かたわらから若い男の手が伸びてきたかと思つと、瓶をひたたくって自分の喉に

流しこむ。

「それは、よかった」

アフリカを発つ前日の夜にナイロビで出会った旅行社のスタッフの話によると、酒場が出る「バナナ・ビール」は、ときに致命的なのだそうだ。イッキ飲みして身まる日本人旅行者もいるのだとか……。つい手を出したくなる「好奇心」を押さえつけてくれた「怖がり」の資質に、このときばかりは助けられたのであった。

### 民俗の酒の運命… 近代的な都市化との関係で

アフリカをはじめ、発展途上地域の酒が皆、危ないというわけではない。

エチオピアの田舎の農家の軒先で飲ませてもらった「米ぬかを水で溶いたようなビール」は、美味にはほど遠かった。でも、晴れ渡った日曜の屋さがりを、けだるい快さで過ごさせてくれた。

中華料理素材のツバメの巢の採集を見にいった東マレーシア、サバ州ミリのジャングルでは、土地の人がペットボトルから水筒の蓋に濁り酒のようなものを注いでくれた。米が原料の甘味の強い、味醂のような味のそれも、歩き疲れ

た足に元気を甦らせてくれた。

これらの体験から、こんなことが言えそうな気がする。つまり、伝統的なムラの生活のなかで人びとが、自分たちのために醸し、ときに旅人を喜ばせるためだけにふるまってくれる酒は、どこで飲んでも大丈夫である。それに対して、近代的な都市化とでもいうのか、外部経済の刺激でムラの生活が変化し、未だ工業製品のビールやウイスキーが普及するほどではないが、観光客に飲ませるために造り、酒場で売るようになったばかりの民俗社会伝来の酒は、一般に「ちょっとヤバイ」ように思われる。

実際、日本でも東京オリンピック直前、京都・鴨川東岸にあった、焼き肉で密造のドブロクを飲ませる店のオヤジから、こんな話を聞いたことがある。

「ドブも、もう、おしまいや。だんだん警察がうるそうなる。この間までポリさんも『安い、うまい』ゆうて飲みに来とったんやがなあ。そら、昔はヤバイこともあった。ドブ造るのに黄リンの入ったネコイラズを使うたりしたんや。で、飲んだ人が死んだゆう話を聞いたこともある。なんでも、それを飲んだあとに暗がりでおシッコをすると、リンがボーッ



フェズ旧市街

と青白う光るんやそうや。そやけど、それは戦後のどさくさの話で、今はそんなこと絶対にあらへんのやけどなあ」

もとよりネコイラズは歓迎できない。しかしドブロクが完全に消えてしまうのも面白くない。土地ごとに特有の酒が味わえて、しかも安全でなければ困る。どうも酒好きというのは、勝手なことばかり考えるものであるらしい。

そんな思いで夜のメキシコシティを歩きまわったことがある。アフリカ旅行から10年ばかりあつたことだ。そこにはテキーラやメスカルといった蒸留酒のほかに、ブルケという名のドブロクがあつた。マゲイという龍舌蘭の汁を発酵させただけの酒である。その歴史は古く、当時はメキシコのアルコール消費量のおよそ3分の1を占めているという話であつた。

ブルケだけではない。庶民の間には「インディオのキャビア」とあだ名されるシロアリの卵やイグアナ料理、アルマジロの蒸し焼きなどの珍味があるともいう。さっそく試してみようと大衆酒場に出かけた。だが、ドアは閉ざされたまま。ブルケは、なかなか姿を現してくれない。

その翌朝、ティオティワカンのピラミッドに向かう途中、街道筋

の土産物屋が接待用にブルケを出してくれた。小さなグラスに注ぐと、蚕の糸の固まりが濡れて流れるように銀色に輝く。口に含むと、ぬめつとした感触があり、ほのかな甘みとマゲイの青臭い匂いがする。

そう。時が経ち、近代的な都市化が一定以上の水準に成熟すれば、民俗の酒も、再び安全圏に到達する。そういえば日本のドブロクも、最近は商品化されて「濁り酒」と呼び名を変え、若い女性にも飲みやすい甘みの強い酒になっている。

とはいえ、やっぱり旅や酒の楽しみは、どうやら「危険と珍しさの皮膜」に成立するという事情に変化はなさそうである。

### 料理や酒は気候風土や風景と交響する

ところで、もとをただせば酒はすべて「民俗の酒」である。麦をカロリ―源としてきた地域では、麦芽の酒、すなわちビールが醸された。やがてそれを蒸留し、樽で熟成させてウイスキーが生まれる。米が主食の東アジアでは、麴で糖化して発酵させ、清酒や紹興酒を醸造する。それを蒸留すれば、各種の焼酎になる。葡萄の原

産地では、その果汁を発酵させて葡萄酒とし、さらに蒸留してブランデーやグラッパなどの製品にする。すべて酒は、その土地の風土と文化の産物にほかならない。

そこで唐突ながら「ふぐ」である。あるとき、行きつけの魚屋の兄ちゃんが、ふぐ調理師の免許を取得した。以来、友人とワリカンで、あるいは家族でひっそりと、冬の間は4、5回は、てっさ・てっちり・ふぐ雑炊の3点セットが楽しめるようになった。街の料理屋なら、べらぼうな値段のふぐも、自宅で食べると、安くはないが、ファミリーレストランに毛の生えた程度の出費で済む。

「ならば」というので、ある年、シーズンも終わりの3月なかば、時期はずれに食ってやろうと大量に仕入れて冷凍にした。それから1か月あまり、ゴールデンウィークに、てっちり・ふぐぞうすいとシヤレこんだ。ところが残念ながら、これがうまくない。冷凍したからか。違う。陽気のせいである。ふぐは、暖房のきいた部屋で食べても、外気が身の引きしまるほど寒い季節にこそ、無上の御馳走となるらしい。

季節だけではない。場所が変わっても味覚は変化する。たとえば泡盛のクース(古酒)は、豚三

枚肉の煮込みやゴーヤチャンプルーなどと一緒に沖縄で飲むと、めっぽう旨い。それでつい土産に一瓶、持ち帰ったりする。しかし京都の郊外、比叡山中腹の自宅では、きりりと決まることがない。飲み物や食べ物、それを育てた土地ごとの気候や風土を背景にして初めて本来の実力を発揮するものらしい。

このことは、夏にイタリアを旅したときにも思い知らされた。ここでは適切な価格で、いくつもの忘れがたい美味に出会える。ペニスのイカ墨とポレンタやクモガニ、フィレンツェの牛肉とポルチーニ茸のステーキ、ポローニャのトリュフとルッコラとチーズをのせた子牛のカルパッチョ、パロマの生ハム、そして土地ごとに異なった風味の各種チーズなど、いずれも極上の美味であった。

こうなると、つい土産物に食材を加えたいくなる。乾燥ポルチーニ茸、オリーブ油、バルサミコ、何種類かのチーズ、ポレンタの粉、濃厚な味わいの生ハムなどをトランクにしのばせた。そして、家に帰ってイタリア料理のマネゴトをすると、結構これがうまい。気候・風土が変わっても、本来の味覚を発揮する食材が存在しうるので、かもしれない。しかしそれでも、

やっぱり何かが違う。

と述べたところで思いだすのは、葡萄酒で有名なキャンティ地方を少し南にはずれた小高い山の街モンテプルチアーノでの夕食である。澄みきって乾燥した空気が、夏の真昼でも快く涼しい。なだらかな丘のつづく黄土色の大地には、朱色の屋根の家々が点在し、糸杉や葡萄畑の緑とのコントラストが美しい。夕方には空が濃い群青色と鮮明な朱色の階調を描きながら、ゆっくり暗さを増していく。

やがて8時、ホテルを出て石畳の坂道をレストランに向かう。座席は葡萄蔓のパイゴラをしつらえた石造りのテラスにあった。銀の皿が暮色を濃くする空を背景に葡萄の蔓を映している。何種類かのアンティパストのあと、少し乾かした牛肉に香味野菜のルッコラを乗せ、オリーブ油とバルサミコとパルメザンチーズを振りかけたカルパッチョと一緒に飲んだ赤葡萄酒の味わいは、今なお脳裏から消えることがない。

やっぱり料理や酒は、それを育てた土地の気候風土と交響して底力を発揮する。それは味覚を主人公と見たてつつも、食器の色や形、家具やインテリア、まわりの風景、空気の温度や質感や匂い、

あたりに流れる音楽や話し言葉などを、同時に楽しむマルチメディアなのだ。これらは、そこに旅する以外、手に入れようがあるまい。

### 旅の酒は人を二重に

#### 「自分以外の存在」に誘う

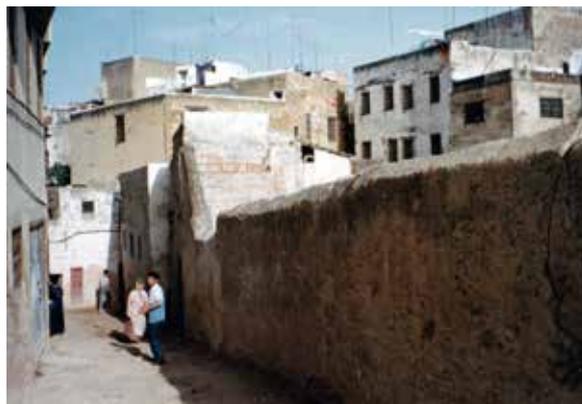
さて、当然のことながら旅先でも、酒は人間を酩酊に誘う。しかし旅人が、ときに「酒で醒める」こともある。モロッコの古都フェズでのことだ。砂漠の炎天下、なだらかな丘に純白の石造りの家が、まるでハチの巣のように稠密に並んでいて、その間を細い迷路がアリの巣のように縫っている。

とても自動車など入れない、その細く入り組んだ路上を、羊の皮を背負い、買い物籠をぶらさげ、馬やロバを連れて夥しい数の人が行き交う。そんな細い路に向けて、これまた夥しい数の小売店が商売をしている。皮を剥いだばかりの羊の腿肉、新鮮な野菜、干したナツメやバナナ、ターメリックなどの香辛料、銀や真鍮の細工物、靴や衣料、各種の飾り物、羊肉の串焼きやモロッコ風ドーナツなどだ。

そんな迷路を私自身、動くもののひとつとなつて歩いてきた。そのうち、人や物の熱気と乾燥した



フェス旧市街



暑熱に、意識が軽いトランスにたゆたいはじめる。そんなとき、狭い通路の角から、黒いベールをかぶった女の澄んだ美しい目だけが微笑みかけた。と、一瞬ののち、姿は迷路の彼方に消えている。それは夢だったのか、うつつだったのか。

喉が渴いていた。空腹感もあった。暗い通路のはての店から、羊の串焼きの香ばしい匂いが漂ってくる。で、店に入ることにした。肉をほおぶりながら、よく冷えたビールを胃の腑に流しこむ。うまい。すぐに軽い酔いの兆候が心身に広がっていく。ところが、その酔いは、ふだんとは逆に、軽いトランス状態にあった心身を、覚醒に連れ戻しにかかっている。砂漠の都市と人と物と街に酔った私は、そのとき「酒で醒める」という初めての経験をした。

そういえば旅先で「しこたまに酔った」という記憶は少ない。もとが相当な「怖がり」ゆえ、見知らぬ土地で酔っぱらうことを警戒しているのか。

もっとも、酒とその酔いが矛盾に満ちているように、酒飲みの話には矛盾がつきものである。グレートブリテン島の南部へ、廃墟となった工場をはじめ、近代遺跡の観光開発の実態を調査に行った

ときは、したたかに酔った。

無理もない。とても名前が覚えられないぐらい多種類のモルトウイスキーを集めているパブがあるからだ。それらを試し始めると、もういけない。焚き火の煙の匂い、腐葉土の趣き、消毒臭を思い出させるものなどをワンショットずつ、氷は入れずに水で薄めて順に飲んでいく。

支払いは現金払い。勘定はきわめてリーズナブル。グラスを重ねるほか、ありえない。当然、酔いがまわってくる。気が大きくなり、下手な英語でも平気でしゃべれる。パーテンダーや隣りに座っているオヤジさん相手に、結構な講釈を打ってきたような記憶がある。そんなとき、私は酔って「ほく以外のもの」になっていたのだらうか。冷たい風に吹かれながら宿に帰る道すがら、なぜか開高健のエッセーの一節を思いだしていた。

「自分以外のものになりたい」

——コレです。男がお酒を飲みたがるのも。お酒は手軽にいつでもどこでも男をいまの自分以外のものにならせてくれます。堅造は軟作になり、石部氏は餅田さんになり、ネズミのようにおとなしいのがトラのようにたくましく、あべ

こべにガミガミ屋がイッパイ飲むと妙にくだけてやさしくなったり、イヤもう、その変貌ぶりはめまぐるしいばかりです。

そうか。人は「自分以外のものになりたい」から酒を飲むのか。

だとすれば、ふだん出会えぬ風景や自然、人々や生活や文化、珍しい料理や酒が体験したくて出かける旅も、どこかに「自分以外のものになりたい」という動機を潜めているのではないか。ならば「旅で飲む酒」は二重の意味で人を「自分以外のもの」へと誘うことになるのだが……と考えて、ある酔っぱらいの友人の行状を思い出した。

その人物は、飲みだすと止まらない。しかし、泥酔の果てには気弱になり、千鳥足でタクシーをつかまえるや、

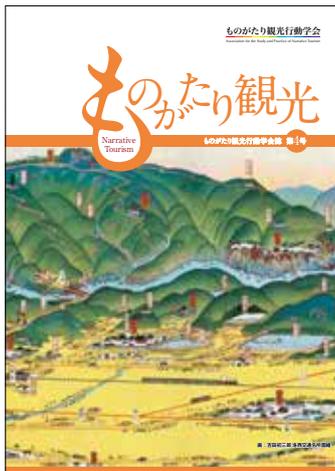
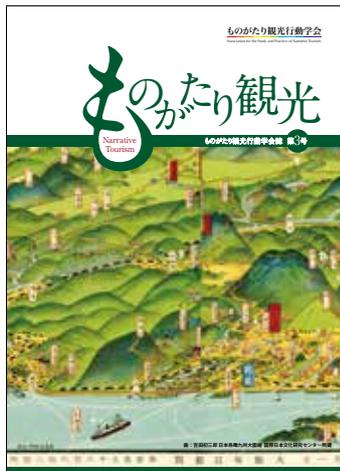
「枚方へ行って。はよう行って」  
大阪郊外、奥さんの待つ自宅へと急ぐのだ。

その男がニューヨークでしたたかに酔った。そのときもまた、ふらふらしながらイエローキャブをつかまえるや大声で、

「枚方へ行って。はよう行って」  
どうやら彼は、ふだんの生活場所から遠くはなれた旅先で、旅と

酒のせいで「二重に自分以外のもの」になるという妄想に導かれて、ふだんの生活場所に「みずから連れ戻される」という離れ技をやったのけようと試みたのであった。

今号より紙面を  
リニューアルしました!



## 編集規程および執筆要領について 概要

ものがたり観光行動学会誌は、毎年7月末に原稿を締め切り、10月に1巻1号を発行する。本誌に論文等を掲載できる者は、編集委員会が特に依頼する場合を除き、共同執筆の場合を含め個人会員名で発表する者に限る。その主な内容を以下に示す。

原稿受付は  
毎年 7/1 ~ 7/31、  
データ入稿に限る

### 掲載する内容

1. 大会関係論文（依頼）
2. 研究論文（投稿）
3. 研究ノート（投稿）
4. エッセー（投稿）
5. 文献・図書（投稿）

### 査読の有無等

本学会編集委員会が別途定めた査読要領に基づき、掲載の可否を審査する。これらの詳細は、本学会ホームページ <http://narrative-tourism.org/> で公開する。なお、規程・要領は学会誌の改善目的のために軽微な修正が加えられる場合がある。この場合、毎年11月末迄に上記のホームページ上に修正箇所を明記して公開する。

ものがたり観光  
行動学会誌  
年1回発刊

# 旅の原稿を 求めています

## 旅か観光か？

……旅行を楽しんだあとは、旅先で得た出会いや発見、  
異文化体験・歴史体験、ほのかな恋心、ハプニングなど  
「ものがたり」を文章に起こし、その行動を一冊の中、記憶に留め置きたい……  
ものがたり観光行動学会誌は、研究論文・研究ノートその他、  
「旅の記憶」をエッセイにしたため、社会に向けメッセージしたい。  
そう考え、旅の原稿を求めています。



- ・ 投稿は「学会員であること」のみが条件
- ・ 毎年7月末締め切り／投稿への詳細は本学会ホームページ参照
- ・ ただし!! 編集委員会によって「掲載可否」を決定!!  
……すなわち少なからずハードルが存在する
- ・ このハードルを越えるのも旅の楽しみ

ものがたり観光行動学会誌

ものがたり観光 Narrative Tourism 第5号

---

発行日 2015年10月1日

発行／ものがたり観光行動学会

会長／白幡洋三郎

編集代表／ものがたり観光行動学会誌編集委員長 加藤晃規（関西学院大学名誉教授）

ものがたり観光行動学会

学会拠点事務所

〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-2-10

☎ 06-6232-1613

✉ work@anata.org

学会事務局

〒879-6911 大分県豊後大野市清川町宇田枝158

☎ 0974-35-3601

●学会誌のご注文、問い合わせは下記まで。

デザイン・印刷／株式会社シンカ・コミュニケーションズ

〒586-0009 大阪府河内長野市木戸西町1-5-7

TEL 0721-52-5934 FAX 0721-53-3859

URL <http://www.cinca.jp> ✉ anata@cinca.jp



**ものがたり観光行動学会**

Association for the Study and Practice of Narrative Tourism

## **ものがたり観光行動学会誌**

2015年10月1日（毎年1回10月発行）第5号 発行人／白幡洋三郎 編集人／加藤晃規

学会拠点事務所 〒541-0048 大阪市中央区瓦町1-2-10 ☎06-6232-1613 ものがたり観光行動学会

学会事務局 〒879-6911 大分県豊後大野市清川町宇田枝158 ☎0974-35-3601

**定価1,000円**